

交通・環境学習 授業の全体像

各学年で検討して設定した授業：単元と枠組みは、表 1.1 に示すとおりである。

表 1.1 授業の全体像

学年	クラス・児童数	学習教科	単元名	授業実施時期	研究会 公開授業
1年	3クラス95名	生活	しぜんとあそぼう！	1学期 ～2学期	部内研究会
2年	4クラス111名	生活	どきどきわくわくまちたんけん ～わたしのまちをたんけんしよう～	1学期 ～2学期	全校研究会
3年	3クラス99名	総合	見よう！聞こう！みたけの森しぜんたんけん	1学期 ～2学期	部内研究会
4年	3クラス112名	社会科	きょう土に伝わる願い ～ぼくらの電車いきいきプラン～	2学期	全校研究会
5年	3クラス119名	社会科	自動車をつくる工業 ～御嵩からのエコ大作戦～	2学期	全校研究会
6年	3クラス97名	総合	日本のすばらしさを知ろう ～わたしたちの生活と交通・環境から～	2学期 ～3学期	部内研究会
	全校児童数：633名				

授業の計画と実施

授業実施計画は、「交通・環境学習」を通して学習の基本的な目標である「思考力・判断力・表現力を育てる学習」を創っていくことを念頭に、単元のテーマに基づいて各学年の教員が主体的にカリキュラムを構成し、指導計画を構成した。

授業実施内容

実施した授業の概要を表 2.1～表 2.6 に示す。

表 2.1 1年生：「しぜんとあそぼう！」授業の概要

単元名	しぜんとあそぼう！
学習教科	生活科
学習のねらい	みたけ町の自然とかかわるなかで、季節ごとの自然の変化に気付き、自然を身近に感じ、自然とのかかわりの楽しさを実感する。
学習の構成	1.「みたけの森/文化の森」たんけん(春・秋) ○春のみたけの森たんけん ○秋のみたけの森たんけん 2.「たんけんマップ」作成 ◆「たんけんマップ」のワークスペースへの掲示
目標とする子どもの姿	・みたけ町の自然とのかかわりの中で季節の変化に気づく子 ・自然を利用して積極的に何かをつくったり、遊んだりする子 ・絵や言葉で自分の考えを表現できる子

表 2.2 2年：「どきどきわくわくまちたんけん」 ～わたしのまちをたんけんしよう～

単元名	どきどきわくわくまちたんけん ～わたしのまちをたんけんしよう～
学習教科	生活科
学習のねらい	子どもたちは学校や家庭を中心とした生活から、友だちや地域の人々、身の回りの環境などのかかわりを通して、自分たちの地域へと生活の場を広げる。本単元では、身近な地域に出かけることで、様々な人々や場所との出会いをつくり、それらに親しみや愛着をもち、自分の生活とのかかわりをさらに広げたり深めたりすることを期待する。 とくに、まち探検の活動を通して、交通空間としての“歩く”ことの価値を実感し、人々と適切に接する力や安全に生活する力を身に付けさせたい。
学習の構成 (15コマ)	<p>①まちのひみつをおしえあう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.「まちのひみつ」を見つけに行く計画をしよう 2.「まちのひみつ」を見つけよう ○「まちのひみつ」たんけん 3.見つけた「まちのひみつ」をカードにかこう 4.見つけた「まちのひみつ」を教えあおう <p>②たんけんのけいかくをたてよう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.お店の「まちのひみつ」を見つける探検計画をしよう 2.まちたんけんの約束を考えよう 2.お店の人にインタビューをする練習をしよう <p>③まちをたんけんしよう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.自分が知りたい「まちのひみつ」を見つけに行こう ○自分が知りたい「まちのひみつ」たんけん <p>④見つけたことを教えあおう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.「まちのひみつ」発表会の準備をしよう 2.「まちのひみつ」発表会をして、まち博士になろう ◆「まちのひみつ」発表会
目標とする 子どもの姿	・みたけ町の人や場所、自然にかかわる楽しさを味わうとともに、それらを通して気づいたことや楽しかったことについて、自分なりの方法で表現することができる。



写真 2.1 授業風景：まちのひみつを教えあう



歩道を歩く

御嵩駅構内



御嵩駅案内係りに質問

御嵩駅構内

写真 2.2 まちの探検風景

表 2.3 3年：見よう！聞こう！みたけの森しぜんたんけん

単元名	見よう！聞こう！みたけの森しぜんたんけん
学習教科	総合的な学習の時間
学習のねらい	<p>自分たちの住んでいる御嵩町には自然豊かな「みたけの森」があることを知り、みたけの森の保全を継続的に行ってみえる地域の自然名人さんたちとみたけの森自然探検をすることにより、人々の願いを知るとともに、ササユリをはじめとして貴重な植物があることを知る。</p> <p>また、自分たちだけでみたけの森自然探検をして、貴重なみたけの森の自然を守りたいという心情を持つとともに、みたけの森の自然を守ることが環境を守ることにつながっていることをポスターや新聞などで表現させたい。</p>
学習の構成 (16コマ)	<ol style="list-style-type: none"> 1.春のみたけの森自然たんけんの計画を立てよう 2.自然名人さんと一緒に、みたけの森をたんけんしよう ○みたけの森たんけん ✓外部講師:「みたけの森保全グループ」吉川政夫代表、「御嵩町環境マイスター」田中晃さん 3.みたけの森で見つけたことやわかったことをまとめよう 4.お世話になった自然名人さんたちにお手紙を書こう 5.秋のみたけの森自然たんけんの計画を立てよう 6.秋のみたけの森をたんけんしよう ○秋のみたけの森たんけん 7.秋のみたけの森で見つけたことやわかったことをまとめよう 8.自然を大切にすることと地球の環境を良くすることがつながっていることを知ろう ✓出前講座:「岐阜県博物館」千藤克彦課長補佐(岐阜県地球温暖化防止活動推進センター) 9.みたけの森自然たんけんで分かったことを発表してみんなに知らせよう ◆新聞・作文・ポスターなど発表会
目標とする 子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・御嵩町の自然や環境に興味と関心を持つことができる。 ・初めての「総合的な学習」への取り組み方を身につける。 問題意識を持つ→課題をつくる→調査・検証方法を考える→継続的な取り組み、調査活動・調べ学習 →結果の考察→考察したことを他へ伝える→自分たちの生活や行動の見直し・実践 ・調べたことや考察したことをまとめ、人前でもしっかりと話し合えることができる。



写真 2.3 巨大地図を活用した「自分の家見つけ」

表 2.4 4年：きょう土に伝わる願い ～ぼくらの電車いきいきプラン～

単元名	きょう土に伝わる願い ～ぼくらの電車いきいきプラン～
学習教科	社会科
学習のねらい	<p>わたしたちの暮らしの中に当たり前存在する名鉄広見線に着目し、鉄道が御嵩に敷かれるまでの人々の願いや努力を学習することで、わたしたちの今の暮らしは先人達の強い願いと多くの努力によって発展してきた結果であることを知り、地域社会に対する誇りや愛情を育む。また、鉄道が敷かれた当時と今の変化の様子を捉え、名鉄広見線がなくなってしまうのかを考える。そして、自分たちの考えをポスター、新聞として制作し、駅や商店街に貼ることで地域へ発信させていく。</p> <p>ここで、子どもたちにとっては、普段鉄道を利用しないことも多く、あまり身近な存在とは言えないため、鉄道を身近に感じるために、名鉄広見線に乗せる活動を取り入れ、どんな人が乗っているか調べさせたり、駅で働く人の様子を観察させたり、車窓からの景色を見せたりすることで、子どもたちに新しい発見をさせ、学習意欲を高めたい。</p>
学習の構成 (14コマ)	<p>①第一次</p> <ol style="list-style-type: none"> 御嵩から電車がなくなっていいのだろうか？ みたけ駅から電車に乗って新しい発見をしよう ○名鉄広見線体験乗車 電車に乗って分かったことや不思議に思ったことなどを交流しよう <p>②第二次</p> <ol style="list-style-type: none"> 鉄道はどのように敷かれたのだろう どうして鉄道ができる話を断ったのだろう どうしてここまでして鉄道を敷いたのだろう ✓「名鉄広見線の話」中島勝國先生(元小中学校校長) 鉄道を敷いたことで、人々の生活はどう変わったのだろうか <p>③第三次</p> <ol style="list-style-type: none"> 鉄道を利用している人や駅員さんは、今どんな思いをしているのだろうか？ ○みたけ駅出口調査(利用者ヒアリング)、駅員さんヒアリング 御嵩町としては、今後どうしていきたいのだろうか？ わたしたちには何ができるかを考えて発信しよう ◆展示:「ぼくらの電車いきいきプラン」～御嵩駅美術館～
目標とする 子どもの姿	<p>鉄道敷設に懸ける先人の願いや努力を知り、利用客や鉄道会社の人の話を聞くことで様々な立場の人がいることに気付き、広見線や電車利用という視点で自分たちには何ができるか考え、それを他者へ発信することができる。</p>



写真 2.4 中島勝國先生の話を聞く



写真 2.5 展示：「ぼくらの電車いきいきプラン」～御嵩駅美術館～

表 2.5 5年：自動車をつくる工業 ～御嵩からのエコ大作戦～

単元名	自動車をつくる工業 ～御嵩からのエコ大作戦～
学習教科	社会科
学習のねらい	<p>自動車がつくられ販売するまでの過程を学習する中で日本の工業生産と国民生活との関わりについて考える。とくに、地域での工業生産の様子を調べることを通して、身近な自動車がどのように作られているのか、もの作りにかかる人々の工夫や努力を理解し、工業生産と国民生活との関わりを身近に捉えさせるように学習する。</p> <p>また、自動車に対する子供たちの「調べてみたい、知りたい」ということから課題設定をし、実際に見学に行き見たり、聞いたりすることで興味・関心を持たせ、最後まで意欲的に学習できるようにしていく。そして、地域の関連部品工場を取り上げ、生産過程を学習することを通して、日本の工業生産を代表する自動車産業は、関連部品工場やそれに関わる人々の工夫や努力によって支えられていることが理解できると考える。</p> <p>最後に、地域の環境の問題に対して、自分たちが実践できる環境にやさしい暮らしを考え、実践計画を立てて情報発信をする。</p>
学習の構成 (23コマ)	<ol style="list-style-type: none"> 1.わたしたちの生活は、どのような工業製品に支えられているのだろう 2.アンケートをもとに、気づいたことを交流しよう 3.自動車部品組み立て工場の見学計画を立てよう 4.自動車は、どのように組み立てられているのだろうか？ ○トヨタ自動車工場見学 5.どうして間違いもなく注文した車がつくられるのだろう 6.どうしてトヨタは3万点もの部品があるのに、一人ひとりの希望に合わせて速く正確に車をつくることができるのだろう 7.完成した自動車は、どのようにして消費者のもとに届くのだろう 8.どうして日本の自動車工場が海外に進出するようになったのだろう 9.環境に良いクルマと普通の車はどのような違いがあるのだろうか？ ○「クルマ大集合」、事前説明会「燃料電池自動車を体験しよう」 10.ハイブリッドカー誕生には、どのような工夫や努力があったのだろう 11.御嵩町の自動車工場では、どのような工夫や努力があるのだろう 12.御嵩町では、どんな環境問題が起きているのだろう 13.環境にやさしい暮らしの計画を立てよう 14.家庭で実践する計画を立てよう 15.撮影会の準備をしよう 16.エコ番組を制作しよう 17.ビデオ撮影会を開催しよう ◆ビデオ撮影会
目標とする 子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・御嵩町の歴史や特色に興味関心をもち、環境への取り組みを調べることができる。 ・今までの学習の仕方を活かして、必要な資料を選別し、それらを関連させて自分の考えを持つことができる。 ・調べたことや考察したことを図や表などに分かりやすくまとめ、それらを提示しながらはつきり話し、伝えることができる。



燃料電池車試乗



電気自動車・天然ガス車・福祉自動車の説明



排気ガス調べ：NOx



排気ガス調べ：PM

写真 2.6 「クルマ大集合」

表 2.6 6年：日本のすばらしさを知ろう ～わたしたちの生活と交通・環境から～

単元名	日本のすばらしさを知ろう ～わたしたちの生活と交通・環境から～
学習教科	総合的な学習の時間
学習のねらい	<p>明治村を見学したことをきっかけに、交通機関に目を向け、私たちの生活との関わりについて意識を高めたい。六年生の「総合的な学習の時間」の出口の学習であり、導入での「御嵩の歴史の扉を開こう ～御嵩から日本へ～」に続く学習として位置付ける。</p> <p>明治村見学で見たり、聞いたり、体験・実感したことを大切にしながら、江戸・明治・現在の3つの時代のそれぞれの交通機関(道や乗り物)について班ごとにテーマを持って調べ学習を行い、私たちの町にも目を向けて、時代ごとの町の交通について考えることで、今の御嵩町の交通に関わる課題を捉える。</p> <p>各班の発表を交流することで、環境問題や未来の交通機関などに対する考えを持つことで、3学期の議会見学の時に「御嵩町のこれからのために、6年3組が考えること」という議案書を提案したい。</p>
学習の構成 (23コマ)	<ol style="list-style-type: none"> 1.「明治村」見学計画を立てよう 2.「明治村」見学体験 <ul style="list-style-type: none"> ○「明治村」見学会 3.江戸、明治、現在の交通を調べよう 4.発表会(ポスターセッション)を開催しよう <ul style="list-style-type: none"> ◆発表会(ポスターセッション)
目標とする 子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習を生かして、自分たちのテーマに沿って必要な資料を選別し、それらを関連させてまとめることができる。 ・調べたことを、わかりやすくまとめ、それらを提示しながらわかりやすく仲間に伝えることができる。 ・自分たちが住む御嵩町にもっともっと関心を持ち、もっと住みやすい、よりよい御嵩町にするために具体的な考え、意見を持つことができる。

1. 評価と課題

1.1 授業の検証・評価

授業の評価視点と目標を以下のように設定した。

各学年の担当教員が取りまとめた検証・評価と課題を表 3.2～表 3.7 に整理する。

表 3.1 評価の視点

評価の視点	目標
交通環境問題を視点とした社会化、生活課、総合的な学習における学習プロデュースのあり方	交通、環境教育に関する問題解決学習が行えるような「社会科」「生活科」「総合的な学習」の単元、教材を開発する。
問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方	1つの取り組みに対して、試行錯誤しながらも最後までやり抜かせ「やりきった」という成就感を味わわせる。そのための手立てを考える。
情報発信と生活化を出口とした地域への環境アクションのあり方	調べたこと、わかったこと、自分の考えを人前でしっかりと話し、伝えることができる子をめざす。そのための手立てを考える。

表 3.2 1年：「しぜんとあそぼう！」学習のまとめと評価

評価の視点	まとめ・評価
<p>交通環境問題を視点とした 社会化、生活課、総合的な 学習における学習プロデュ ースのあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「みたけの森」を軸にして单元ごとにつながりをもたせたことで、児童が季節を楽しみながら学習することができた。 ・見学体験学習を文化の森に変更したことで、自然に対する視野が広がった。 ・児童の知的な気づきをさらに生み出すために、春の「みたけの森」探検の前に教師が細かい年間指導計画を立てることが必要であった。
<p>問題解決学習を成立させる 指導と評価のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で身近な秋を探索した後に「みたけの森」や、文化の森で学習したことで、自然を比較したり、考えを深めたりすることができた。 ・探検した内容をもとにマップを作成して交流した結果、休み時間に学校の様々な場所へ、休日には「みたけの森」へ交流の中で気付いたことや驚いたことを自ら確認しに行く子が多かった。 ・マップを作成し、ワークスペースに掲示したことで、他学級のマップを休み時間に見る児童が多く、学習内容の振り返りや、他学級との交流もすることができた。
<p>情報発信と生活課を出口と した地域への環境アクション のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・五感をつかって観察させたことで、文章を書くときや、他教科で観察をするときなどにもそれを生かして学習することができた。 ・話形をマニュアル化して黒板や教室の側面に掲示しておくことで、すらすら話すことができる子が増えた。 ・1学期から話し方を「はじめ」「なか」「おわり」の形にしていたことで、算数や国語など他教科でもその様な話し方をする児童が多かった。
<p>総括・今後の課題</p>	

表 3.3 2年：「きょう土に伝わる願い～ぼくらの電車いきいきプラン～」のまとめと評価

評価の視点	まとめ・評価
交通環境問題を視点とした社会化、生活課、総合的な学習における学習プロセスのあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期「どきどき わくわく まちたんけん」の単元を通して御嵩の町中の道の様子や、自然について学ぶことができた。 ・「わたしのまちをたんけんしよう」では、道路の様子や歩き方、人との関わりに視点をおき、探検し、「生きものをかおう」では自然に視点をおき探検する。 ・2学期は「わたしのまち大すき」と関わらせ、ふるさとたんけんではまちの人との交流をしたり、道中の交通環境を調べる活動を仕組む予定であったが今年度はふるさとたんけんが中止になったためできなかった。
問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・まちたんけんでは、4つの視点を持たせ、みんな一緒に歩き、全員に視点を確認させながら探検することで、もっと詳しく知りたいという興味関心を持たせるとともに、見つけてきたことに対して、活発な交流ができた。 ・町中の交通環境に目を向けることで、グループ探検では、安全に気を付けて探検しようとする姿が見られた。 ・全体で歩いた道なので、グループ探検では自信を持って学習に取り組むことができた。
情報発信と生活課を出口とした地域への環境アクションのあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ探検の前にお店の方の役の子と児童の役の子と役割分担して、話す練習をすることで、探検中ていねいな言葉で話すことができた。 ・まちたんけんの後に、探検で見つけたことを他の人に伝える学習をした。発表の方法をグループで選ばせることで、紙芝居、劇、クイズなどいろいろな方法を考えることができた。 ・参観日に発表会を行ったことで、家庭にも調べたことを広めることができた。実際に、休日に町中へ家族で出かけた家庭もあった
総括・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○単元としては、2年生の発達段階にあっていてよい。 ○まちたんけんは、1学期に2回行うとよい。(クラス全員/グループ) ○5月下旬から6月中旬にかけて取り組むとゆとりを持って探検を仕組める。 ○7月上旬に「生きものをかおう」の学習ができるとよい。(天候不順の時に対応できるように)長岡の田んぼ横でザリガニとりをしている。 ○2学期は時数確保が難しいが、ふるさとたんけんの代わりに・電車で顔戸地区へ行ってみよう。(1年生、2年生で御嵩小の校区のいろいろなどところへ行く。公共の乗り物に乗るときのマナーを知る。)・駅の西側を探検しよう。(お店が多い東側と比較する。中公民館へ行く。)などの探検を仕組むと1学期のまち探検からさらに広げることができる。

表 3.4 3年：「見よう！聞こう！みたけの森しぜんたんけん」のまとめと評価

評価の視点	まとめ・評価
交通環境問題を視点とした社会化、生活課、総合的な学習における学習プロセスのあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・みたけの森探検を春、秋と2回探検して、環境を考えることにつなげるという1年間、継続する単元にできた。 ・2回探検したことで、春の様子と秋の様子を比べることができ、みたけの森の自然の豊かさをさらに感じる事ができた。そして、自然のすばらしさを実感し、みたけの森を大切にしようという気持ちを持つことにつながった。 ・環境と自然のつながりをどんな方にどのように話していただくか考慮することが必要。内容が難しいので、3年生の子どもたちに理解できるような内容にしたい
問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・みたけの森を春と秋、2回探検したことがよかった。 ・春は、ボランティアの自然名人さんと一緒に歩き、みたけの森の貴重な植物についていろいろと教えていただくことによって、自分たちの身近に貴重な自然が残っていること、そのすばらしさを感じる事ができた。秋は、自分たちだけで歩き、春の様子と比べながら違いを自分たちで見つけていくことによって秋には秋の良さがあり、春と様子が違うことから自然が生きていることに気づくという流れがよかった。
情報発信と生活課を出口とした地域への環境アクションのあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を守ることが環境をよくすることにつながる学習をしてから、学習してわかったことや感じたことを他の人に伝える活動をした。新聞にまとめたり、ポスターをかいたり、作文をかいたりした。どんな方法にするか自分で選ばせたところ、今年の子は、ポスターが多かった。どんな内容のポスターをかいたか、意図をみんなの前で話す活動をした。 例)・みたけの森を大切にしよう！ ・ササユリを大切にしよう！ ・みたけの森へ行ってみよう！ ・絶滅危惧種(ギフチョウ)を守ろう！ ・二酸化炭素を減らそう！
総括・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○単元としては、3年生の発達段階にあっているよい。 ○みたけの森は、2回、探検する。 ○春のみたけの森探検は、ササユリの開花時期に合わせる。(6月上旬) みたけの森保全団体のボランティアさんをお願いする。 ○秋のみたけの森探検は、9月下旬から10月上旬にする。早くしないと、下草が刈られて整備されてしまう。 ○自然を守ることと環境をよくすることがつながる学習は、担任が行うこともできるが、3年生の総合的な学習のテーマである名人さんとのふれあいの一環として、どなたか講師を依頼する。ギフチョウとの関連から話していただくなら、自然名人さんからはなしていただくのもよい。今年度は岐阜県博物館の千藤先生にお願いした。

表 3.5 4年：「きょう土に伝わる願い～ぼくらの電車いきいきプラン～」のまとめと評価

評価の視点	まとめ・評価
交通環境問題を視点とした社会化、生活課、総合的な学習における学習プロデュースのあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼくらの電車いきいきプラン」は、自分たちの身近に感じられる教材となった。名鉄電車に乗ったことがない子どもたちも、乗車体験ができ、名鉄廃線問題を考えるきっかけとなった。その点において、新しい単元を開発したことに意味はあった。 ・誰か一人に焦点を当てて学習するなど、鉄道敷設に懸ける人々の強い願いを伝えるような単元のながれにしたい
問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・課題意識をもち、見学や体験、調査することで意欲的に活動することができた。 ・見通しをもった計画だったので、資料をもとに意欲的に読み取り考察したり、まとめたりすることができた。 ・資料集めは大変だが、ねらいに迫るような資料を提示していくことが大切である。
情報発信と生活課を出口とした地域への環境アクションのあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・50周年記念式典でポスターを掲示することができ、地域へアピールすることができた。ポスター作り、新聞作りを出口としていたため、単元を通して自分の考えを明確にもつことへとつながった。 ・家庭でも話題に出したり、家族で電車に乗ったりした話を聞くことができた。
総括・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降も、本年度のテーマを継続することが望まれる。「交通・環境学習」を視点として、今年度取り組んだことをさらに深めていくことになると思われる。

表 3.6 5年：「自動車をつくる工業 ～御嵩からのエコ大作戦～」のまとめと評価

評価の視点	まとめ・評価
<p>交通環境問題を視点とした社会化、生活課、総合的な学習における学習プロセスのあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の「自動車を作る工業」から環境教育に関する問題解決学習を行うことができた。御嵩町にある自動車部品工場の「盟和産業」を取りあげることによって環境問題を児童の身近なものと考えることができた。 ・「クルマ大集合」「事前説明会」等の出前授業により、児童が意欲的に環境について考えるきっかけになった。 ・社会見学で行ったトヨタ工場の中にも環境を考えた工夫が数多くあり、児童は環境に対する意識を高めることができた。
<p>問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が問題を解決できるように1時間1時間資料を準備することができた。資料は、写真や自動車部品の実物を使ったり、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ等を準備したりして資料読み取りの力をつけさせることができた。 ・盟和産業について学習したときには、実際に長野工場の研究推進室で働く福岡さんに来ていただき、実際に工場で働く人の声を聞くことができた。 ・クルマ大集合で集まった電気自動車、燃料電池車、天然ガス車のパンフレットをいただき、担当者の方から説明をしていただいたことで、それぞれのクルマの特徴を学習することができた。 ・クルマ大集合の事前学習会では、燃料電池車のミニカーを持ってきていただき、実際に水素と酸素を使って走行する実験を学習することができた。また、走行する燃料電池車に体験乗車し、乗り心地等を確かめることができた。
<p>情報発信と生活課を出口とした地域への環境アクションのあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の学習「工夫して発信しよう」と関連させて全校に発信している。ポスターや新聞を各学年のワークに掲示し環境についての取り組みを呼びかけている。 ・だから読み、付け足し読み、まとめ読み、前の資料読みの4つの資料読み取りの方法を指導したとにより、資料から分かった事実と自分の考えを発表することができた。また、仲間の意見と比べたり、付け足したりして発表することができた。
<p>総括・今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・御嵩町にある盟和産業とのつながりを大切にし、盟和産業に見学に行けるとよい。 <li style="padding-left: 20px;">盟和産業・・・67-0888 ・4年生で学習した水、ゴミの学習とさらに関連させるとよい。 ・御嵩町には、環境に配慮している自動車工場が数多くあるので盟和産業だけでなくそれらも教材料することができる。

表 3.7 6年：「日本のすばらしさを知ろう ～わたしたちの生活と交通・環境から～」
のまとめと評価

評価の視点	まとめ・評価
交通環境問題を視点とした社会化、生活課、総合的な学習における学習プロデュースのあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の内容にはふれあいバスの利用者が年間15000人でその8割がお年寄りといった普段の生活では知ることのできないことがあり、学校の資料だけでなく、色々な収集の仕方を経験していることがわかった。 ・ 児童の発表する姿は、相手を意識できており質問に対しても堂々と、受け答えができていた。 ・ 自ら調べたいと思って調べ、自分たちなりにたどり着いた答えだったので、発表の姿に意欲や自信があふれていた。 ・ 「なぜお年寄りの利用が多いのか。」「交通手段がバスしかない。」といった交通と人々のくらしとのかかわりについての意見交流もされていた。 ・ テーマが大きすぎて、本当に御嵩町についての理解や意識を高めたとは言い難かった。もう少し各班の発表を整理できなかったらどうか。 ・ テーマをもっと住みよい日本なのか、御嵩町なのかはつきりさせるとよかった。
問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポスターセッションの本来の意味は発表する人と聞く人がとても近い位置で気楽に質疑できることにある。説明をすべて終わってから質問を受けるといった型にこだわる必要はなかった。 ・ 発表の時には、聴く側の人数を確保したい。本時については少なかったのではないか。
情報発信と生活化を出口とした地域への環境アクションのあり方	
総括・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ このテーマで名鉄広見線やふれあいバスの内容を深めて議会に提案していくことは、政治的な要素が強いので、児童にはやや難しい。文化財のある誇りある御嵩や、住みやすい町にするために、という出口にしたほうが単元の組みたてがしやすいのではないか。 ・ 児童の「住みよい御嵩町」のイメージが、御嵩町に飛行場があればいい、新幹線を引けばいいといった現実離れしたものになりがちだったのは、御嵩に対する基本的な理解が薄かったからだと考える。本年度は初年度なので児童に積み重ねがない。4年生の社会科からの積み上げが非常に大事である。

1.2 まとめと課題整理

(1) まとめ

本年度の御嵩小学校における「交通・環境学習」を総括的にまとめると、次のとおりである。

- ・全学年が「交通・環境学習」に取り組むという方針で児童の思考力・判断力・表現力を育む学習を創造していこうという意欲的な事業であり、賞賛すべき取り組みであったといえる。
- ・とくに、御嵩町固有の資産や風土を踏まえて各学年の教科課程に基づいた単元と教材を開発できたことは大きな成果である。また、交通・環境というフィールドを通して問題解決学習を語るという目標に対しても、子どもたちが意欲的に学習することができるとともに、今後の課題も具体的に整理することができた。
- ・学習に際しては、積極的に実際のフィールドに触れたり、場所や人とのコミュニケーションを重視することで、問題解決学習の成立という支店でも大きな成果を得ることができた。また、出前講座やゲストティーチャーは、児童にとって大きな刺激となり、その資産を蓄積することができた。
- ・調べたこと、わかったこと、自分の考えを人前でしっかりと端、伝えるという目標に対しては、多様な手法で情報発信をすることができ、自分たちのメッセージが伝わる喜びを実感することができた。

(2) 課題

本年度の取り組みは、実にすばらしいものであったと思われるが、取り組みの目標に基づいたいくつかの課題と、今後の継続的な取り組みや他校への広がりといった視点からの課題が指摘される。

- ・本年度の意欲的な教材開発や全校での取り組みは、ひとえに教員の皆様の熱意と努力に起因するものである。今後の授業時間の確保や、地域・学校・学年固有の背景などを勘案すると、教員への負担が大きいことは否めない。教員の負担軽減とそれに対する支援のあり方については、さらに検討が必要であると思われる。
- ・「交通・環境学習」の教材は、ある程度の蓄積があるものの、本年度の事前の計画や準備状況などを勘案すると、地域の風土などの実態、学校、職員、児童の実態を考慮して、教員がカスタマイズしていかなければならない。この場合の取り組み事例の蓄積や参照方法などの環境を整備することも大きな課題であろう。
- ・本年度取り組んだ単元/教材についても、実践の結果として指摘される資産や課題が数多くある。これらの情報を的確に、しかも着実に伝えることができるしくみの構築が望まれる。

資料 1 : 學習指導案

第2学年 生活科学習指導案

日時 : 平成21年6月11日(木)第2校時

場所 : 2年4組教室

授業者 : 谷中 静香

1. 単元名 ときどきわくわくまちたんけん ~わたしのまちをたんけんしよう~

2. 指導の立場

(1) 本単元について

本単元は学習指導要領の内容(3)を受けて設定し、展開したものである。

(3) <地域と生活>

自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

子どもたちは学校や家庭を中心とした生活から、友だちや地域の人々、身の回りの環境などのかかわりを通して、自分たちの地域へと生活の場を広げる。本単元では、身近な地域に出かけることで、様々な人々や場所との出会いをつくり、それらに親しみや愛着をもち、自分の生活とのかかわりをさらに広げたり深めたりすることを期待している。

学習指導要領には、「ここで人々や場所を取り上げる際には、単に地域全体を扱うということではなく、児童の思いや願いを生かした活動ができるとともに、繰り返しかかわる活動ができ、活動を通して地域がより身近なものになることが大切である」と書かれている。そこで、子どもたちが学校周辺のまちに興味・関心をもつことで、どんな思いや願いをもつかを想定し、実際に子どもたちが出かけられる場所を考えた。

そして、本単元「わたしのまちをたんけんしよう」では、校区内で「歴史のまち御嵩町」として挙げられる御嵩駅東側を探検することにした。ここには、様々なお店もあるため、「お店の中はどんなふうになっているのかな」「お店の人はどんな人だろう」と思うと考えられる。また、4月に校内の春見つけを行った子どもたちは、「学校の外でも草花や生きものもさがしにいきいたいな」と願うと考えられる。この願いは、まちの中の自然へ着目し、校区内の地域の自然探検を行う「生きものをかおう」に位置づけることとした。

さらに、本単元では、まち探検の活動を通して、人々と適切に接する力や安全に生活する力を身に付けさせたい。

人々と適切に接することは、相手のよさを感じ取り、自分のよさを伝えることにもなり、より深いかかわりを生む。そのために、地域の人々とあいさつをして適切な言葉遣いでやりとりすることが必要である。ここでは、地域の店を訪問し、そこで働く人々にインタビューする活動を行う。その際には、あいさつをする、用件を伝える、相手の都合を尋ねるなど、マナーを守って行動することが求められる。そして、実際に地域の人々とかかわり、マナーを守ることで互いに気持ちよく生活できるという体験を重ねることで、子どもたち自らが人々と適切に接する大切さを感じ、その接し方を身に付けるようにしていきたい。

また、安全に生活するために、広い道、狭い道、自動車も行き来する御嵩のまちの様子を捉えることを意識し、実際に歩くことによって、交通安全の意識を高められると考えられる。1回目の探検では、学級ごとに並び、教師が先導して歩く。しかし、2回目の探検では、グループに分かれての子どもたちだけで歩くことになる。ここでは、教師や保護者ボランティアの方が危険箇所立って子どもたちを見守るが、子どもたちにとっては、その場の状況を捉え、危険を予測して行動することを学ぶ場としても位置づける。そのために、2回目の探検の前に、1回目の探検で見つけた道の様子などを交流して探検の約束を行うことも大切にしてほしい。

この単元では、実際に繰り返し出かけることで、御嵩駅東側のまちの中で親しみや愛着をもつ人や場所を増やし、このまちが安心して生活できる場として感じられるようにしたい。そして、本単元での活動を通し

て、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにしたい。

(2) 児童の実態

男子13名、女子14名 計27名の学級である。

本単元では、まちの人や建物、道路に特徴が見られ、子どもたちの探検が可能な距離にある「御嵩駅東側のまち」を取り上げることにした。このまちは、かつて中山道の宿場まちとして栄え、「歴史の残るまち」として親しまれ、様々なお店があるまちである。

しかし、御嵩小学校の校区は広く、この地域に住んでいる子どもは学級全体で3人である。その子どもたちも含め、みたけ館内の図書館や郵便局を利用することはあっても、利用したお店の話題となるとバローや校区外の大型スーパーの話になり、このまちの中のお店についてはほとんどでてこない。授業で「まちのひみつ」と尋ねても、まちの様子そのものが頭に浮かばない子どもが多いと考えられる。

そのため、「行ったことがない。」と言う子どもにもまちのことを大まかにつかんで興味・関心をもてるようにし、学級全体でまちの様子を共有できるように、単元の始めに1回目のまち探検を位置づけた。

1回目のまち探検では、学級全体でまちの様子を大まかにつかみ、見つけた「まちのひみつ」を学級全体で交流し、このまちを校区内のまちとして身近なものに感じさせる。さらに、この全体交流によって、まちの人やお店について「もっと詳しく知りたい」という興味・関心を高めさせ、2回目のまち探検では、グループで行動し、お店の中を見せてもらったり、お店の方にインタビューをしたりして、自分から主体的にかかわってより詳しくなることによって、よりこのまちに対して愛着がもてるようにしたい。

また、前単元の「1年生と学校たんけんをしよう」では、人とのコミュニケーションの力として、上級生としての下級生への適切な接し方を子どもたちに身に付けさせたいと考えた。小学校の中で初めて上級生となった子どもたちは、お兄さん、お姉さんとして下級生の1年生の子たちにどのように接したらよいかを考えて探検計画をし、行動した。

1年生と実際に探検を行ったあとには、「1年生の子に(説明が)よくわかったって言われたよ。」「失礼しますって大きな声で言ったら、1年生の子どもちゃんとあいさつしてくれたよ。」と子どもたちがとても嬉しそうに話したり、プリントに書いたりする姿が見られ、適切に人と接したことによる喜びも実感したようであった。

“1年生 まちの人(大人)” “学校内 校区のまち”と対象や場所が広がるが、前単元で学んだことを生かし、相手のことを考えた話し方や行動、お店の中でのマナー、交通安全のルールを守ることにつなげ、人々と適切に接する力や安全に生活する力を伸ばしていきたい。

(3) 本時について

1回目の探検によって自分が見つけた「まちのひみつ」は、建物(青)・人(黄)・道路(ピンク)・自然(緑)と色分けしたカードに絵や文でかいている。本時は、このカードを地域マップに貼って「まちのひみつ」を学級全体に発表し、交流することによって、まちに対する子どもたちそれぞれの関心をより高めることをねらいとしている。ここでは、友だちの見つけた「まちのひみつ」を聞くことによって、まちの中には自分が知らないことがあることに気付かせ、「もっと詳しく見てみたい」という思いへつなげたい。そして、プリントに書いたり、ペア交流をしたりして自分の思いを言葉にして表現することによって、2回目のまち探検への意欲をもたせたい。

(4) 人権同和教育の観点

本時の展開では具体的に次の3点が人権同和の観点となる。

- ・ 「まちのひみつ」を見つけようと身近なまちの様子に意識して目を向け、見つけたことを発表したりマップに表現したりすることで「認識力」を高めることができる。
- ・ 交流活動において、相手のことを考えてわかりやすく伝えようとする意識を高めようとするすることで「行動力」を高めることができる。

- ・ グループ交流や全体交流の中で、友だちの話を聞いて自分の意見や思いと比較したり、取り入れたりして、自分の意見や思いをより深めていくことが「自己啓発力」につながっていく。

3. 研究のテーマに関わって

(1) 研究主題

思考力・判断力・表現力を育てる学習の創造

～「交通・環境学習」を視点として～

2年生のめざす子どもの姿・研究の重点

御嵩町の人や場所、自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、自分なりの方法で表現することができる。

(2) 研究内容に関わって

【研究内容1】 交通・環境問題を視点とした「生活科」における学習プロデュースのあり方

生活科は、子どもが身近な環境と直接かかわる活動や体験を楽しむことを大切にしており、発見したことや成功したことなどの喜びを味わうとともに、直接体験を通して実感的なわかり方ができるようにすることを大切にしている。

本単元では、まち探検の活動を通して、まちの人や場所に出会い、適切にかかわることで、子どもたちが御嵩のまちの人や場所にかかわることに関心を高め、まちのよさに気付き、愛着をもつことができるようにしたい。また、実際にまちの中を歩いたことで見つけた道路交通の様子を取り上げ、グループでの探検活動の計画を行うことで、地域の中での安全で適切な行動を子どもたち自身が判断できるようにしたい。

そのために、次のことに留意して単元構想を行った。

- ・ 学校内の探検 御嵩のまちの探検へ、全員での探検 グループでの探検へなどステップを踏む。
- ・ まちや人と関わる探検(わたしのまちをたんけんしよう) 自然と関わる体験(生きものをかおう)と視点を明確にして活動にあたる。
- ・ 校外での学習を多く取り入れ、体験学習の時間を十分に確保する。
- ・ 御嵩駅東側のまちが子どもたちにとって「身近なまち」となるように、単元の導入に全体でのまち探検と交流を行う。

課題づくりの導入

(第1時～第5時) まちのひみつをおしえあおう



ふかめる

(第6時～第8時) たんけんのけいかくを立てよう

(第9時～第12時) まちをたんけんしよう



まとめる

(第13時～第15時) 見つけたことをおしえあおう

【研究内容2】 問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

「まちのひみつ」を見つけるためのまち探検を行う取り組みに対して、試行錯誤しながらも最後までやり抜かせ「やりきった」という成功感を味わわせるための手立てを次のように考えた。

児童に達成感を味わわせるための学習過程の工夫

- ・ 全体で体験 交流 確認 グループで体験 交流の学習を行うことでより身近な問題になり、子どもたちに願いを達成する充実感を味わわせることができる。

本時は、全体でまち探検を行ったあとの交流活動にあたり、次回のグループでのまち探検を行うことへの意欲を高める学習として位置づけた。

一連の学習過程が把握できる学習教材（プリント）の工夫

前時では、自分が見つけたことをカードにまとめ、学級全体に教えることをプリントに示し、学習の見通しをもたせて本時にあたる。また、本時の交流活動によって新たにできた自分の願いをプリントに書かせることで、「まちのことをより詳しく捉えるための探検を行う」という次時への活動を子ども自身が把握できるようにする。

『研究の視点』

【研究内容 1】 交通・環境問題を視点とした「生活科」における学習プロセスのあり方

- ・ 全体でまち探検とその交流活動を位置づけ、課題づくりの導入の時間に時間をかけたことが、御嵩駅東側のまちにあまり行ったことがない子どもにまちを身近に感じさせ、2 回目のまち探検への自分なりの課題（願い）をもたせることにつながったか。

【研究内容 2】 問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

一連の学習過程が把握できる学習教材（プリント）の工夫

- ・ 項目別の色分けのカードを使い、地域マップに貼って話す活動は、「ひみつ」を探すための視点を明確にもたせ、まちの場所や人とかかわる新しい自分の課題をもたせることにつながったか。
- ・ 自分の願いをプリントに書いて、ペア交流を行うことは、自分の願いをはっきりともたせることにつながったか。

4 . 単元の目標と単元指導計画

単元の目標

御嵩のまちの人や場所などに関心をもち、探検を通じていろいろな人や施設と適切にかかわり、それらが自分たちの生活と深くかかわっていることに気付き、もっとかかわりを広げようとすることができる。

単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
御嵩のまちの人や場所、自然などに関心をもち、進んで探検をして、かかわりを広げようとしている。	御嵩のまちを探検してかかわった人や施設や自然、できごとなどを多様な方法で表現し合うことができる。	御嵩のまちにはいろいろな人がいて、さまざまな施設やできごと、自然などがあること、それらとかかわることの楽しさに気付いている。

単元指導計画 ときどきわくわくまちたんけん ～わたしのまちをたんけんしよう～ (全15時間)

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準・方法	指導・援助
ま ち の ひ み つ を お し え	1 「まちのひみつ」に対する興味・関心をもち、まち探検に出かけて探す意欲を高めることができる。	1. 友だちや教師の知っている「まちのひみつ」を聞く。 2. 課題 「まちのひみつ」を見つけにいく計画をしよう。 3. 「まちのひみつ」見つけの活動内容を知る。 4. 探検の約束をする。 ・交通安全について ・活動の内容 わたしたちのまちにはどんなひみつがあるのかな。 早くさがしにいきたいな。	「まちのひみつ」に対する興味・関心をもち、まち探検に出かけて探す意欲を高めている。 〔関心・意欲・態度〕 (会話・発表)	・教師がまちで見つけた、子どもが興味をひきそうなものを「まちのひみつ」として写真で提示し、「ひみつ」を探すための視点を与える。
あ お う	2 探検に出かけた御嵩駅東側のまちの建物、人、道路、自然などに目を向け、「まちのひみつ」を探ることができる。	1. 活動の約束を確認する。 2. 課題 「まちのひみつ」を見つけよう。 3. 「まちのひみつ」見つけの探検を行う。 ・学級ごとに並んで、担任とともにまちを歩き、建物・人・道路・自然について見つけたことをメモする。 いろいろな「まちのひみつ」を見つけたよ。 友だちにも教えたいな。	まちの中の人、店、公共物や公共施設をよく見て歩き、「まちのひみつ」を探している。 〔関心・意欲・態度〕 (行動、メモ)	・子どもたちの安全に十分留意して行動する。 ・子どもたちが見つけた「まちのひみつ」を紹介しながら、建物や人、道路に注目させる。
4	まちで興味をもった人や場所、できごとを「まちのひみつ」として、絵や文でカードにかくことができる。	1. 前時の活動を振り返る。 2. 課題 見つけた「まちのひみつ」をカードにかこう。 3. たんけんメモから、自分が見つけた「まちのひみつ」をカードに絵や文でかく。 4. カードを見せながら、隣の席の子に「まちのひみつ」を教える。 見つけた「まちのひみつ」をカードにかけたよ。 クラスみんなに話したいな。	まちで見つけたことや興味をもったことを、絵や文を使ってカードにかくことができる。 〔思考・表現〕 (カード、会話)	・「まちのひみつ」は付箋紙で色分けして地域マップに貼る。 建物(店、駅など)・青色 店やさまざまな施設の人・黄色 道路・ピンク色 動植物などの自然物・緑色
5 (本時)	「まちのひみつ」を教え合うことで、まちには、自分の知らないこともあり、行ってみたい場所や見てみたいことを見つけ、もう一度探検へ行ってみたいという意欲をもつことができる。	1. 前時の活動を振り返る。 2. 課題 見つけた「まちのひみつ」を教え合おう。 3. 見つけた「まちのひみつ」を発表し、地域マップに貼る。 4. 友だちの発表を聞いて、思い出したことやさらに見つけたことをグループでカードにかいて地域マップに加える。 5. 探検したり、地域マップにまとめたりして思ったことを話す。 6. 自分でも行ってみたい場所や見てみたいこと、ほかにも「まちのひみつ」がありそうな場所や思いをプリントに書いて、話す。(ペア 全体) 7. まち探検への意欲を高める。 行ったことがないお店がいっぱいあるよ。 お店は中を見ないとよくわからないから、見てみたいな。	自分の見つけたことを積極的に話している。 〔関心・意欲・態度〕 (発表・つぶやき) 自分が行ってみたい場所や見てみたいことを見つけている。 〔関心・意欲・態度〕 (プリント・会話・発表)	・発表した子と同じ場所のカードを貼らせ、付け足し内容があれば発表させて内容を深める。 ・多くの子どもたちが見たことがない店の中の写真を見せたり、地域マップのカードがあまり貼られていない場所にも注目させたりし、身近な場所でありながら今まで自分が知らなかったものへの興味・関心を高めさせる。 ・ペア交流をし、マップを指差しするなど、行ってみたい場所を全員に表現させる。
た ん けん の け い か く を 立	6 友だちと行ってみたい場所を話し合ったり、持ち物を準備したり、探検に行く際のルールやマナーを考えたりして、まち探検に行く計画を立てることができる。	1. 前時の活動を振り返る。 2. 課題 お店の「まちのひみつ」を見つける探検計画をしよう。 3. まち探検したい場所を出し合い、グループで話し合う。 ・探検したい場所、探検したい理由を話す。 ・探検する場所(お店を3つ)を決める。 ・探検先でしたいことを考え、見たいこと、聞きたいことをプリントに書く。 見てみたいところの計画はしっかりできたよ。 でも、ちゃんと行けるか心配だな。	行きたい場所や探検方法について進んで話し合い、探検の計画を立てている。 〔関心・意欲・態度〕 (会話、プリント)	・前時までで学級で作成した「まちのひみつ」を貼った地域マップを掲示しておき、町探検への意欲を高める。 ・どんなものが見たいのか、何を質問したいのか、探検場所での目的を明確にさせる。

て よ う	7 まちに出て、人とかかわりながら探検を行うには、安全面やマナー、友だちとの協力を考えて計画や準備を行う必要があることに気付くことができる。	1. 学校探検での約束を振り返る。 2. 課題 まち探検の約束を考えよう。 3. グループでまちを歩くときの約束を考える。 ・交通安全について（危険箇所の確認） ・不審者に出会った場合の対応について ・自分勝手な行動をしない 4. お店の中での約束を考え、確認する。 5. 探検のコースを決め、道のりを地図プリントにかき、気をつける場所をグループで確認する。 約束や気をつけることがよくわかったよ。 でも、お店の人にちゃんと話せるか心配だな。	安全面やマナー、友だちとの協力などを考えて計画や準備を行う必要があることに気付いている。 〔気付き〕 (会話、プリント)	・探検中に気をつけること、特に安全にかかわることがらは、繰り返し指導する。 ・探検先でのマナーについて、お店の人の気持ちになって考えさせる。
	8 店の人役とインタビューする役にわかれてインタビュー劇をして練習することを通して、探検でまちの人とかかわるときのマナーや約束を身につけることができる。	1. お店の中でのマナーや約束を確認する。 2. 課題 お店の人にインタビューをする練習をしよう。 3. お店の人の気持ちを考えて、質問する言葉を書く。 4. お店の人役と質問する役にわかれてインタビュー劇をする。 5. 劇をして気付いたことをグループで話し合い、言葉を直したり、付け加えたりする。 上手なインタビューの仕方がわかったよ。 ドキドキするけど、ひみつが見つけれられるように頑張るよ。	お店の人の気持ちを考え、気持ちのよいあいさつ、適切な言葉遣いや行動を書いたり、劇で行ったりしている。 〔思考・表現〕 (プリント、行動(劇))	・あいさつや言葉遣いによってお店の人がどんな気持ちになるかを考えさせ、適切な話し方ができるように指導する。 ・劇では、お店でのマナーや約束も意識させて実演させ、身につけられるようにする。
ま ち を た ん け ん し よ う	9 10 11 12 自分たちで立てた計画に基づいて、グループで協力しながら、施設や人々などとかかわりを持ち、まち探検を楽しむことができる。	1. 活動の約束の確認をする。(安全面) 2. 課題 自分が知りたい「まちのひみつ」を見つけに行こう。 3. 学級ごとに並んで、蟹薬師まで歩く。 4. 交通安全を考えながら、グループで歩く。 5. 各お店で、計画した活動を行う。 ・あいさつをきちんと行い、丁寧な言葉遣いでインタビューをする。 ・聞いたことをメモする。 ・約束の時間までに、集合場所(蟹薬師)に戻ってくる。 6. 学校へ戻り、メモから見つけたことをプリントにかく。 ・探検したお店の様子 ・見つけたことや出会った人の様子 ・お店の人から聞いたこと 見に行ったお店のひみつをいっぱい見つけたよ。 他のグループの友だちにも教えたいな。	グループの友だちと協力しながら探検を楽しみ、まちの人に進んであいさつをしたり、質問したりし、積極的にかかわろうとしている。 〔関心・意欲・態度〕 (行動、会話) これまでに気付かなかつたまちの人や場所について気付いている。 〔気付き〕 (探検メモ、プリント、会話)	・複数の教員で連絡を取り合い、子どもたちの安全を確保する。 ・保護者ボランティアの方に事前に活動内容を伝え、危険が予想される場所に立ってもらい、子どもたちの安全を確認してもらう。 ・交通ルール、あいさつやお店でのマナーなどについて不適当な行動に対しては、その場で指導する。 ・見つけたことや気付いたことは、メモをとるよう声をかけ、あとでカードに表現する際の手がかりとして活用させる。
見 つ け た こ と を お し え	13 14 探検して気付いたことや見つけたことを、聞く人にわかりやすい発表方法を選び、工夫してまとめることができる。	1. まち探検の様子を振り返る。 2. 課題 「まちのひみつ」と発表会の準備をしよう。 3. グループで、どんなことを、どのように発表するか話し合う。 4. 発表の言葉を書いたり、使うものをつくったりする。 5. 発表の練習をする。 発表の準備はできたよ。 みんなに聞いて喜んでもらえる発表にしたいな。	聞く人にわかりやすい発表になるように、絵や道具を用いたり、話し方を考えたりして、工夫してまとめることができる。 〔思考・表現〕 (プリント、会話、行動)	・教科書の例を参照させ、自分たちの発表したい内容に合った表現方法を選ぶように声をかける。 ・練習をグループ内で見合い、気付いたことを教え合うようにする。 ・練習をもとに発表に使うものを手直しするように助言する。
あ お う	15 まち探検で見つけたことや気付いたことを自分なりの方法で表現し、友だちと交流しながら自分の住んでいるまちやまちの人に愛着をもつことができる。	1. 楽しい発表会になる話し方、聞き方を確認する。 2. 課題 「まちのひみつ」発表会をして、まち博士になろう。 3. グループごとに探検したことを発表する。 4. 自分の発表を振り返る。 聞く人にわかるように発表することを頑張ったよ。 友だちの発表を聞いて、御嵩のまちのよいところがたくさんわかったよ。わたしたちのまちはすてきななあ。	自分で発表したり、友だちの発表を聞いたりして、自分のまちにはよいところがたくさんあることに気付いている。 〔気付き〕 (発表、会話)	・聞き手が見やすいような場の設定をしたり、発表の順番やきまりを板書しておいたりして、楽しい発表会になるように環境を整える。 ・聞き手が質問したり、感想を言ったりするようにして、単調な発表会にならないようにする。

第3学年 総合的な学習の時間学習指導案

日時 平成21年11月26日(木)第5校時

場所 会議室

授業者 可児 恭子

川口 和彦

高木 美智代

1 単元名 見よう!聞こう!みたけの森しぜんたんけん

~「わくわくたんけん」を中心とした地域学習の展開~

2 指導の立場

(1) 教材について

「みたけの森」は、人々の散策、レクリエーションなど、保健休養機能を考慮し整備された生活環境保全林である。敷地は広くたくさんの散歩道があり、池、神社、水車、塔など様々な要素があるうえササユリの群生地や湿原などがあり、地元住民には広く親しまれている。

本単元では、まず、自分たちの住んでいる御嵩町には、自然豊かな「みたけの森」があることを知る。そして、みたけの森の保全を継続的に行ってみえる地域の自然名人さんたちとみたけの森自然探検をすることにより、人々の願いを知るとともに、ササユリをはじめとして貴重な植物があることを知る。また、秋には、自分たちだけでみたけの森自然探検をし、春との比較をしながら秋の様子を知る。そして、貴重なみたけの森の自然を守りたいという心情を持つとともに、単元の終末では、みたけの森の自然を守ることが環境を守ることにつながっていることをポスターや新聞などで表現させたい。

(2) 本時について

本時は、外部講師(岐阜県博物館勤務 千藤克彦先生)による授業で、みたけの森の自然を守ることが地球温暖化を防ぎ、地球の環境をよくすることにつながっていることを学ぶ時間である。児童は前時までに春と秋のみたけの森を探検することで、春と秋の自然の違いやそれぞれに見られた自然の豊かさを感じ取っている。自然の豊かさは、人々の目を楽しませ気持ちを豊かにしてくれるだけではなく、地球の環境をよくすることにつながっていることに気づかせたい。そのためには、まず、今、世界的な規模で問題となっている地球温暖化について知ること。温暖化の一因となっている二酸化炭素について知ること。二酸化炭素を吸って酸素を出すのが植物であると知ること。そして、みたけの森の自然を自分も守っていこうとする気持ちになってほしいと願っている。

(3) 児童の実態

男子65名 女子34名(7組籍2名) 計99名の学年である。

本単元で春にみたけの森自然探検に出かける前にみたけの森に行ったことがない児童がおよそ2割いた。8割の児童も、5月に行われるみたけの森まつりなどに出かけただけで、森の中まで散策したことのある児童はほとんどいなかった。

例年は5月に行う春のみたけの森自然探検を、今年はササユリが咲き始める6月初旬に行い、みたけの森には、貴重なササユリの群生地があることやギフチョウの幼虫のえさであるカンアオイが自生していること、また、それらの植物を守るために多くの自然名人さんたちが活動して見えることを初めて知った。特に、きれいに咲き始めたササユリの花が種から花をつけるまでに7年かかることを知ったことは、大きな驚きであり大切にしたいと思う気持ちにもなった。

11月の秋のみたけの森自然探検では、春との違いを感じながら秋の様子を観察したが、春との違いを捉えている児童が多くいた。ササユリの姿が消えていたこと、モミジなどの色づく木々が多く見られたこと、アベマキ、コナラ、シラカシなどのドングリがたくさん落ちていたこと、カンアオイの葉がひっそりと生えていたこと、虫の姿がほとんど消えていたことなど春にどこで何を見たのか鮮明に覚えている児童が意外と多く、その場所で立ち止まっただけでは、探検をすることができた。

その後の日記やみたけの森新聞では、見つけた違いや分かったこと、みたけの森がすばらしいところであることをまとめている児童が多くいた。そして、また、みたけの森へ行ってみたい、みたけの森がすきであるという感情を持つことができたと感じられた。が、みたけの森を守ることが地球の環境をよくすることにつながっているとはまだ考えられていない。

(4) 同和教育の観点

本時の展開では、具体的に次の3点が人権同和教育の観点となる。

- ・地球温暖化や酸素と二酸化炭素の循環作用（酸素を使って二酸化炭素を出すのは人間や動物、二酸化炭素を使って酸素を出すのは植物）を知ることで、「認識力」を高めることができる。
- ・感想を発表するとき、相手のことを考えて分かりやすく伝えようとする中で、「行動力」を高めることができる。
- ・感想を交流する中で、仲間のよさに気づき、自分の意見や思いをより深めていくことが、「自己啓発力」につながる。

3 研究のテーマに関わって

(1) 研究主題

思考力・判断力・表現力を育てる学習の創造
～「交通・環境学習」を視点として～

3年生のめざす子どもの姿、研究の重点

- ・御嵩町の自然や環境に興味関心を持つことができる。
 - ・初めての「総合的な学習」への取り組み方を身につける。
- 課題意識を持つ→課題を作る→調査・検証方法を考える→継続的な取り組み、調査活・動・調べ学習→結果の考察→考察したことを他へ伝える→自分たちの生活や行動の見直し・実践
- ・調べたことや考察したことをまとめ、人前でもしっかりと話し伝えることができる。

(2) 研究内容と関わって

【研究内容1】交通・環境問題を視点とした「総合的な学習」における学習プロデュースのあり方

みたけの森自然探検に出かける前に調査したところ、みたけの森に出かけたことのある児童は全体の8割程度、みたけの森の奥を散策した児童においてはほとんどいなかった。また、みたけの森の自然を保全しようと活動している人々がいらっしやることを知る児童もいないのが現状であった。そのため、みたけの森をもっと身近に感じ、御嵩町には貴重な自然が残っていること、その自然を保全しようと活動してみえる方々がいらっしやること、さらには、みたけの森を大切にすることは、地球の環境をよくすることにつながっていることを知ってほしいという願いから本単元を構成した。

【研究内容2】問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

3年生の児童は、初めて「総合的な学習」に取り組む。本単元の春のみたけの森自然探検では、みたけの森の存在を知り、探検するときの注意や自然名人さんへの接し方を考え、ササユリやカンアオイなど何を見つけてくるか自分なりのめあてを持って臨んだ。そして、見つけてきたことや分かったことを新聞にまとめ、教室に掲示し交流したり、代表作品を中央廊下に掲示し全校へ発信したりした。秋のみたけの森自然探検では、春のみたけの森の様子を思い出した上で、春との違いを見つけることを課題に探検に出かけた。そして、春と同様見つけたことや分かったことを新聞にまとめ、教室で交流したり全校へ発信したりした。本時、自然を大切にすることが環境をよくすることにつながっていることを知り、自分にもできることは何か考えたり、本時以降、自然探検や環境学習会を通して分かったことや気づいたことを自分なりの方法でまとめたり、発表したりさせたい。

【研究内容3】情報発信と生活化を出口とした地域への環境アクションのあり方

2回のみたけの森自然探検の情報発信は新聞という形でまとめた。また、春の探検の後は、自然名人さんに教えていただいて分かったことや自分が見つけたことや考えたことを手紙という形で発信した。本時、環境に関する自分なりの生活化を考えさせ、単元の終末では、単元全体を通して分かったことや今後自分がやってみたいことなどを自分なりの方法でまとめさせ、発表会という形でみんなの前で話をさせたい。

(3) 研究の視点

- ・この単元を仕組んだことで、子どもたちは自分たちが住む御嵩町の自然や環境に興味関心を持つことができたか。
- ・外部講師を招いて環境学習の授業を仕組んだことで、自然を守ることが環境をよくすることにつながることを理解し、環境に関する自分なりの生活化を考えることができたか。

「見よう！聞こう！みたけの森しぜんたんけん！」単元指導計画（全16時間）

《単元目標》

みたけの森を歩きいろいろな植物や虫、鳥などとの出会いを通して、自然に興味関心を持つことができる。

御嵩の自然に触れることを通して、御嵩町の自然の豊かさを体感し、御嵩町にササユリをはじめとして貴重な自然があることを知る。

御嵩町の自然を広く人々に知らせたり、自然を保護することを目的とした活動を継続的に行っている地域の人々の願いを知る。

みたけの森の自然に親しみ、自然を守る活動をしている人々とふれあうことを通して、自分たちもこの貴重な御嵩の自然を守りたいという心情を持つことができる。

自然を守ることが、地球環境を守ることに繋がっていることを知る。

時	ねらい	学習活動	評価、留意点・
1	保全林「みたけの森」の存在を知り、みたけの森自然探検を行う意欲を持ち、探検の計画を立てることができる。	1. 「みたけの森」とはどんなところか教師からお話を聞く。 ・貴重な自然が残されている。 ・御嵩町にはこの自然を守る活動をしている自然名人さんがいる。 春のみたけの森自然の計画を立てよう。 2. しおり作りをする。 ・探検のしかた、注意、持ち物などを知る。 ・何を見てくるかめあてを持つ。 ・名人さんに質問したいことを考える。	・学年集会を開き、みたけの森探検の概要を知らせる。 ・「みたけの自然を守る会」に方々と日程調整。講師依頼。 みたけの森で何を見つけてくるか自分のめあてを持つことができる。
2 3 4 5	自然名人さんとみたけの森を歩き、みたけの森の貴重な自然を見つけることができる。	1. 出発式 ・自然名人さんとの出会い。挨拶。 ・めあて、注意点の確認。 自然名人さんと一緒に、みたけの森をたんけんしよう。 2. みたけの森を探検する。 ・ササユリの群生地を見学する。 ・自然名人さんにいろいろな貴重な植物を教えていただく。 ・見つけたことやわかったことをしおりにメモする。 3. 終わりの会：自然名人さんたちにお礼	・自然名人さんへの接し方を考えさせる。 ・歩道の真ん中を歩く。 ・ササユリ、カンアオイ、ハナイカダなどを観察させる。 自然名人さんに教えていたことや自分で見つけたこと、わかったことをたくさんしおりにメモすることができる。
6	みたけの森を探検してわかったことを新聞にまとめることができる。	みたけの森で見つけたことやわかったことをまとめよう。 1. 「みたけの森新聞」を作る。 ・しおりにメモしてきたことをもとに、絵と文で見つけたことやわかったことをまとめる。 2. 教室に掲示をして交流する。	新聞で見つけたことやわかったことをまとめることができる。 みたけの森が素晴らしいところであることに気づくことができる。
7	自然名人さんにお礼の手紙を送ることができる。	お世話になった自然名人さんたちにお手紙を書こう。 1. お礼の手紙を書く。 ・グループの担当だった名人さん宛に書く。 ・お礼だけでなく、教えていただいたことや自分がわかったことを名人さんに知らせる内容にする。 2. 書いた手紙をみんなで読みあう。	教えていただいて、わかったことを書いて、名人さんへの感謝の気持ちを伝えることができる。 ・子どもたちが書いた手紙を名人さんへ届ける。

時	ねらい	学 習 活 動	評価方法・留意点
8	秋のみたけの森自然探検を行う意欲を持ち、探検の計画を立てることができる。	1. 春のみたけの森がどんな様子だったか思い出話し合う。 秋のみたけの森自然の計画を立てよう 2. しおり作りをする。 ・探検のしかた、注意、持ち物などを知る。 ・何を見てくるかめあてを持つ。	・春の様子の写真資料を掲示する。 春と比べて見てみたいものや知りたいことを決め、自分のめあてを持つことができる。
9 10 11 12	秋のみたけの森を歩き、春の様子との違いを見つけることができる。	1. 出発式 ・めあて、注意点の確認。 <u>秋のみたけの森をたんけんしよう。</u> 2. 秋のみたけの森を探検する。 ・ササユリやドングリなどを見学する。 ・春とどのように様子が変わったかを観察する。 ・見つけたことやわかったことをしおりにメモする。	実ができてきていること、葉の色が変わっていることなど秋の様子に気づくことができる。 自分で見つけたこと、わかったことをたくさんしおりにメモすることができる。
13	みたけの森を探検してわかったことを新聞にまとめることができる。	<u>秋のみたけの森で見つけたことやわかったことをまとめよう。</u> 1. 「みたけの森新聞」を作る。 ・しおりにメモしてきたことをもとに、絵と文で見つけたことやわかったことをまとめる。 ・春と比べて変化している秋の様子をかく。	新聞に見つけたことやわかったことをまとめることができる。 みたけの森がすばらしいところであることを再認識することができる。
14 本時	御嵩の自然を守ることが、温暖化を防ぐこととつながっていることを知る。	1. みたけの森を探検した感想を話し合う。 ・ササユリなど珍しい貴重な自然がいっぱいあった。 <u>自然を大切にすることと地球の環境をよくすることがつながっていることを知ろう。</u> 2. 地球温暖化について知る。 3. 地球温暖化を防ぐにはどうしたらよいか知る。 4. 植物が二酸化炭素を吸収している仕組みを知る。 5. みたけの森を大切にすることが地球の環境をよくしていることにつながっていることを理解する。	・岐阜県地温暖化防止推進センターへ出前講座を依頼。講師派遣してもらう。 環境名人さんのお話を聞き、みたけの自然を大切にすることが自分たちが生活している環境をきれいにすることにつながっていることを理解することができる。
15 16	みたけの森自然探検の学習全体を通して、見つけたことやわかったことをまとめ、交流することができる。	1. みたけの森探検や環境学習会を通して、わかったことや気づいたことを話し合う。 <u>みたけの森自然たんけんてわかったことを発表してみんなに知らせよう。</u> 2. 発表の資料作りをする。 ・新聞、作文、ポスター、自分のまとめたい方法でまとめる。 3. 発表会をする。	みたけの森のすばらしさに気づいたことや、自然を大切にすることが環境を守ることにつながっていることを知ったことをまとめ発表することができる。

講師依頼 みたけの森保全グループ 代表 吉川 政夫さん
御嵩町環境マイスター 田中 晃さん
岐阜県博物館 千藤 克彦 課長補佐
みたけの森探検の前には、必ず事前の下見をする。

第4学年 社会科学習指導案

日時：平成21年11月4日(水)第2校時

場所：4年1組教室

授業者：奥村 洋可

1 単元名 きょう土に伝わる願い ～ぼくらの電車いきいきプラン～

2 指導の立場

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領解説 社会編の内容(5)に基づいている。

地域の人々の生活について、次のこと()を見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例

「次のこと」とは、本単元では上記ウのことである。

本単元では「鉄道の敷設」に着目する。町を走れば必ず見る線路、名鉄の真っ赤な車両 - 鉄道は、わたしたちの暮らしの中に当たり前存在する交通機関である。しかし、現在名鉄広見線の存続問題が叫ばれており、利用者が約10年で半分に減少している。そこで鉄道が御嵩に敷かれるまでの人々の願いや努力を学習することで、わたしたちの今の暮らしは先人達の強い願いと多くの努力によって発展してきた結果であることを知り、地域社会に対する誇りや愛情を育てたいと考える。また、鉄道が敷かれた当時と今の変化の様子を捉えさせ、本当に名鉄広見線がなくなってしまっているのかを考えさせたい。そして、単元の終末でポスター作りをして駅や商店街に貼ることで地域へ発信させていく。

しかし、現在では車が増え、普段鉄道を利用しないことも多く、子どもたちにとって鉄道があまり身近な存在とは言えないであろう。そのため、鉄道を身近に引き寄せるために、導入で名鉄広見線に乗せる活動を取り入れる。どんな人が乗っているか調べさせたり、駅で働く人の様子を観察させたり、車窓からの景色を見させたりすることで、子どもたちに新しい発見をさせ、学習意欲を高めたい。

(2) 本時について

本時は、鉄道が敷かれるまでの人々の努力や鉄道敷設に懸ける思いを学ぶ時間である。前時まで、鉄道が敷かれるまでの歴史、鉄道敷設を断った経緯を学習することで、児童はなぜ鉄道は結局敷かれることになったのか疑問に感じている。そこで本時、自分たちで鉄道会社を設立してまで鉄道を敷きたかったという強い思いをしっかりと押さえたい。そのために、「鉄道の路線図」と、「鉄道敷設前と後の多治見の絵地図」を資料として用意することで、当時の交通が鉄道中心となっており、鉄道が敷設されると発展していく様子を読み取らせる。また、中島勝国先生を講師としてお願いし、御嵩が栄えていた頃の話聞くことで理解を深めていきたい。それが、今後の学習へとつながり、単元の終末で自分の考えをもち発信するために必要な材料となる。

(3) 児童の実態

本学級は、男子20人 女子17人の計37人である。子どもたちはこれまでの学習を通して、資料から事実を見つけノートに書いたり、2つの資料から読み取ろうとしたりすることができるようになった。しかし、資料からわかることを課題とつなげながら考える力が弱い。また、既習内容や生活経験と社会的現象をつなげて考えることができない子どもが多い。事前のアンケートの結果、名鉄広見線を利用したことのない子どもが11人と学級の約30%であった。そこで、本単元では、生活経験と結びつけることができるよう導入で御嵩駅から電車に乗る活動を位置づけた。また、単元のつながりを大切に単元指導計画を作成することで、既習内容とつなげて資料から読み取る力を育てていくとともに、「読み取りの技」の作成により、課題とつなげて考える力を育てていきたい。

(4) 人権同和教育の観点

- ・自分のことだけでなく、利用客や鉄道会社の人などの他の立場の人達の思いを知ること、多様な考えをもつことができる。(認識力)
- ・グループ交流で仲間の良さに気付き、自分の意見に生かすことができる。(行動力)
- ・今までの自分の考えを振り返り、今後どうしていくか考えることができる。(自己啓発力)

3 研究のテーマにかかわって

(1) 研究主題

思考力・判断力・表現力を育てる学習の創造

～「交通・環境学習」を視点として～

4年生のめざす子どもの姿・研究の重点

鉄道敷設に懸ける先人の願いや努力を知り、利用客や鉄道会社の人のお話を聞くことで様々な立場の人がいることに気付き、自分たちには何が出来るか考え、それを他者へ発信することができる。

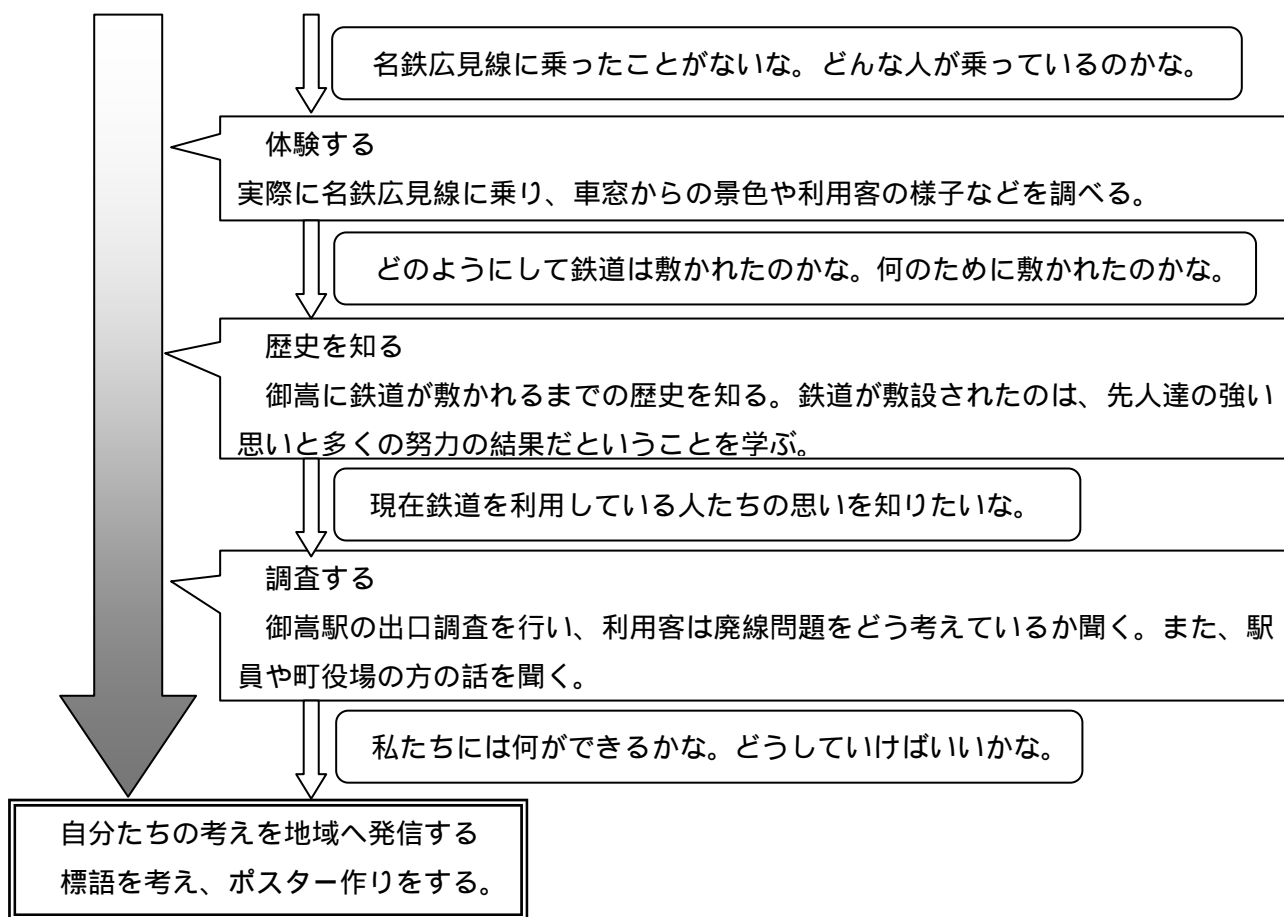
(2) 研究内容と関わって

【研究内容1】交通・環境問題を視点とした「社会科」における学習プロデュースのあり方

現在、御嵩町の移動手段として一番多いのが車である。そして、開通から約80年が経った鉄道(現名鉄広見線)の廃線問題があがっている。子どもたちへのアンケートの結果からも、子どもたちの鉄道離れは否めない。また、電車は御嵩に必要あると思うかという問いに対しては「必要ない」と答えた子どもが学級の約22%にのぼった。そのため、子どもたちにもっと身近に鉄道を感じてほしい、このまま廃線になってしまってもよいかを考えてほしいという思いから本単元を作成した。また、名鉄広見線の廃線問題という現状から自分たちの考えを地域へ発信していくことをねらいとし、そのねらいを達成するために以下の5つの活動を元に単元を構成した。

問題提起

名鉄広見線の廃線問題



【研究内容2】問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

子どもに本単元を通し「やりきった」という思いを味わわせるために、様々な活動を取り入れている。それらの学習活動のつながりを持たせるために、単元の初めに学習の見通しを持つ時間を取り、常に目的意識を持ち活動に参加できるようにした。また、資料からの読み取りにおいては、今までの学習から「読み取りの技」を作っており、資料からなかなか読み取ることができない子の手がかりとなっている。その他にも、「読み取り名人コーナー」にて子どもの学びを掲示しておくことで、互いに学び合い、高め合う子どもたちの育成を目指している。

本時では、鉄道が敷かれるまでの人々の努力や鉄道敷設に懸ける思いを理解させるために、よりよい資料を精選するとともに、講師の方に話を伺う。資料の読み取りから、子どもたちは、当時の交通環境が鉄道中心になってきていること、また鉄道が敷かれることで町が発展していくことを学ぶ。そして講師の方の話により、鉄道敷設以前の御嵩町が東濃地区の中心的存在であった様子について聞くことで、より深く「だから鉄道を敷きたかったのだ。」という強い思いに気付かせたい。

【研究内容3】情報発信と生活化を出口とした地域への環境アクションのあり方

本単元では、乗車体験、資料の読み取り、調査などを通して自分の考えを明確にし、地域へ発信することがねらいに位置づけられている。自分の学習したことをポスターに表し、50周年記念式典や駅や商店

街に掲示することで地域の人達へ発信させる。また、今回学んだことを生かし、「家庭で話をしよう。」「電車に乗ろう。」という意識が少しでも高まっていくとよい。

(3) 研究の視点

- ・この単元を仕組んだことで、子どもたちが自分たちの住む御嵩町に対する愛着をもつことへつながったか。
- ・資料の読み取りや話し合い、中島さんの話を聞くことで、先人の鉄道敷設に懸ける思いの強さについて理解することができたか。

4 単元の目標と単元構想図及び単元指導計画

(1) 単元の目標

- ・鉄道が敷かれるまでの様子を学習することで、それまでの人々の思いや努力を理解することができる。
- ・学習を通して学んだことから自分の考えを持ち、考えをまとめて地域へ発信することができる。

(3) 単元指導計画

	ねらい	学習活動	評価規準・方法	
第一 次	1	ポスターをもとに名鉄広見線の廃線問題に関心もち、鉄道に調べて考えていく意欲をもつことができる。	1. ポスターから知っていることを話し合う。 2. 課題 御嵩から電車がなくなっていいのだろうか。 3. 自分の考えを話し合う。 4. 単元の流れを確認する。 ・乗車体験をする 歴史を学ぶ 調査する 考えを発信する	・廃線問題に関心を持ち、思ったことを進んで話そうとしている。(グループ交流・発表)[関心・意欲・態度]
	2 3	実際に御嵩駅から電車に乗ってその便利さに気付いたり、新しい発見をしたりすることができる。	1. 御嵩駅やそこを走る鉄道について知っていることを交流し合う。 2. 課題 みたけ駅から電車に乗って新しい発見をしよう。 3. 電車に乗る活動をし、気付いたことをメモする。 ・車窓からの景色、乗客の様子、移動時間など	・乗車体験の中で、気付いたことや駅員の話をしおりにメモしている。(しおり)[思考・判断]
	4	気付いたことやわかったことを交流することで、調べていく意欲をもつことができる。	1. 前時の活動を振り返る。 2. 課題 電車に乗ってわかったことや不思議に思ったことなどを交流しよう。 3. 自分の考えをまとめ、交流し合う。 4. 線路はどのようにしかれたのか予想を立てる。 ・電車があると便利だからみんなでよくことに決めたのだろう。 ・ダムみたいに反対した人はいなかったのかな。	・メモを元に、自分の考えを仲間に話している。(グループ交流の様子・発表)[技能・表現]
	第二 次	5	鉄道はどのように敷かれたのか調べ、まとめることができる。	1. 前時を振り返る。 2. 課題 鉄道はどのようにしかれたのだろうか。 3. 資料から読み取り、交流する。 4. 学習のまとめをする。 みんなの力を借りて、時間もかけて完成させたのだな。なぜそこまでしてしいたのだろうか。一回断っているのはなぜだろう。
6		鉄道が敷かれる前の人々の願いに気づくことができる。	1. 前時の復習をする。 2. 課題 どうして鉄道ができる話をこわったのだろうか。 3. 資料から読み取り、交流する。 4. 学習のまとめをする。 この時期の御嵩の人にとって、鉄道は必要なかったし、ある方が迷惑だと考えていたのだな。じゃあなんで鉄道はしかれたのだろうか。	・資料をもとに、鉄道が敷かれる前の人々の願いについて理解している。(ノート・発表)[知識・理解]
7 本 時		鉄道を敷くまでの人々の願いや努力について理解することができる。	1. 鉄道会社を作るために株を94%可児郡が負担したことを知る。 2. 課題 どうしてここまでして鉄道をしようとしたのだろうか。 3. 資料から読み取り、交流する。 4. 中島さんの話を聞く。 鉄道が敷かれる前は、御嵩町は東濃地方の中心だった。しかし、鉄道が敷かれ、御嵩町は中心から外れてしまった。昔の活気を取り戻したいという思いもあり、鉄道を敷くことは当時の人々にとって悲願だった。 5. 学習のまとめをする。 長い時間とお金をかけてまで鉄道を敷いたのは、御嵩町がまた発達してほしいというみんなの思いがあったからなのだ。	・資料をもとに、鉄道敷設に懸ける人々の願いや努力について理解している。(ノート・発表)[知識・理解]

	8	鉄道を敷いた後、人々の生活はどのように変わったのか理解することができる。	<p>1. 前時を振り返る。</p> <p>2. 課題 <u>鉄道をしいたことで、人々の生活はどう変わったのだろうか。</u></p> <p>3. 資料から読み取り、交流する。</p> <p>4. 奥村さんの話を聞く。 ・当時電車に乗ることはみんなの憧れであった。顔戸駅があふれ出るほどの人で埋め尽くされていた。</p> <p>5. 学習のまとめをする。 便利な鉄道が敷かれ、御嵩はまた活気を取り戻した。当時の人達にとって、電車は憧れの存在だった。</p>	・資料をもとに、鉄道を敷いた後、人々の生活はどのように変化したのか理解している。(ノート・発表)[知識・理解]
第三次	9 10	現在の鉄道利用の様子と利用客や駅員の思いを知ることができる。	<p>1. 現在の鉄道利用の様子を知る。</p> <p>2. 課題 <u>鉄道を利用している人や駅員さんは、今どんな思いをしているのだろうか。</u></p> <p>3. 出口調査を行う。 ・御嵩駅の改札口付近で出口調査を行う。 (頻度・時間帯・理由など)</p> <p>4. 駅員の話を聞く。 ・やめるのは簡単だが、みんなが乗ってくれるなら残したい。無人駅にして人件費を削減するなど名鉄も努力している。だからみんなに乗ってほしい。</p> <p>5. 学習のまとめをする。 車に乗れる人はいいけど、乗れない人達にとって電車は大切な乗り物なのだ。駅員さんたちも努力しているし乗ってほしい。このまま廃線になってしまってもいいのかな。</p>	・利用客の思いを知るために、進んでインタビューしている。(行動)[関心・意欲・態度] ・利用客や駅員の思いを知り、ノートにまとめている。(ノート)[思考・判断]
	11	御嵩町役場の方の話を聞き、思いを知ることができる。	<p>1. 前時を振り返る。</p> <p>2. 課題 <u>御嵩町としては、今後どうしていきたいのだろうか。</u></p> <p>3. 御嵩町役場の方の話を聞く。</p> <p>4. 学習のまとめをする。</p>	・話を聞いてわかったことをノートにまとめている。(ノート・発表)[思考・判断]
	12 13 14	自分たちに何ができるか考え、考えたことを発信することができる。	<p>1. 前時を振り返る。</p> <p>2. 課題 <u>私たちには何ができるか考えて発信しよう。</u></p> <p>3. ポスターを作る。 ・みんなに自分の考えを発信するポスターを作る。 ・考えを発信するために原稿を考える。</p> <p>4. 単元のまとめをする。 考えを発信する。</p>	・自分たちに何ができるか考えている。(ノート・発表)[思考・判断] ・自分の考えをポスターに表している。(行動・ポスター)[技能・表現]

5 本時のねらい

多くの時間やお金をかけてまで鉄道を敷いたのは、鉄道の利便さだけでなく、御嵩をもう一度栄えさせたいという御嵩の人々の強い思いがあったからだということを理解することができる。

6 本時の展開(7/14)

	学習活動	指導・援助
<p>つかむ</p> <p>深める</p> <p>まとめる</p>	<p>1. 鉄道会社を作るために可児郡の人達が行ったことを知る。</p> <p>・ 鉄道会社を作ったまで鉄道を敷こうとしたなんてすごいな。</p> <p>・ なんでここまでしてまで鉄道を敷こうとしたのだろう。</p> <p>2. 課題</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どうしてここまでして鉄道を敷こうとしたのだろう。</p> <p>3. 資料から読み取り、交流する。</p> <p>・ 鉄道がいろいろなところに敷かれるようになってきているな。</p> <p>・ 鉄道が敷かれた多治見では、駅の周りにたくさんの家が建ち並んでいるよ。</p> <p>・ 鉄道ができると町が発展するのかな。</p> <p>4. 中島さんの話を聞く。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;">御嵩町は昔「東濃の政治や文教の中心」と言われるほどの町であった。しかし、東濃鉄道ができてから、多治見や可児が栄えるようになり、御嵩は新しい時代から取り残された状態であることに気付いた。そこで、鉄道を結びもう一度前のように発展させたいという思いが強くなった。だから、長い時間と多くのお金をかけてまでも、鉄道を敷きたかった。</p> <p>5. 学習のまとめをする。</p> <p>鉄道を作るために寄付をしたり手伝ったりしたのは、鉄道をしくことで、御嵩町がまた発展してほしいというみんなの思いがあったからだと思う。だから長い時間とお金をかけてまで鉄道をしいたのだな。</p>	<p>・ 鉄道会社を作るための労力を具体的な数値で表すことでその割合の大きさに驚かせ、課題化へとつなげさせる。</p> <p>・ 前時までの学習のあゆみを掲示し、既習内容とつなげて考えやすいようにする。</p> <p>・ 今日の学習では、「読み取りの技」のどのような技が使えそうか全体で確認する。</p> <p>・ 「鉄道敷設以前」と「鉄道敷設後」の2枚の多治見の絵地図から、鉄道が敷かれることで人が増え、発展していく様子を捉えさせる。</p> <p>・ グループで交流することで、気付かなかったことに気付いたり、互いに高めあったりできるようにする。</p> <p>・ 中島さんの話により、鉄道が運搬や移動に便利だったことだけでなく、もう一度御嵩を発展させたいという人々の強い思いがあったからであることに気付かせる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">資料をもとに、鉄道敷設に懸ける人々の願いや努力について理解している。(ノート・発表) [知識・理解]</p>

第5学年 社会科学習指導案

日 時 平成21年11月19日(木) 第5校時
場 所 5年3組教室
授業者 木村 健太郎

1. 単元名 自動車をつくる工業 ~ ~
2. 指導の立場

(1) 教材について

本単元は学習指導要領社会科の内容(2)を受けて設定し、展開したものである。

(3) 我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。

- ア 様々な工業製品が国民生活を支えていること。
- イ 我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など
- ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸の働き

本単元は、大単元「わたしたちの生活と工業生産」の中の小単元「自動車をつくる工業」にあたる。自動車産業は日本の工業生産額の16%(2004年)を占めており、1種類の製品でこれだけの割合を占めている産業は他にはなく、日本の代表的な工業生産である。また、子供の生活に密接に関係し、日常生活に欠かすことのできない工業製品としても位置づけられている。

「この自動車は、どんな工場でどのように作られているのだろう」、「働いている人たちは、効率よく生産するために、どんな工夫や努力をしているのだろう」と自動車がつくられ販売するまでの過程を学習する中で日本の工業生産と国民生活との関わりについて考えたい。また、日本の産業を支えている重要な工場が海外へ進出していることや環境に優しい燃料を使った車、品質や安全を重視した車など、これからの自動車工業についても学習する。

可児市内、御嵩町内には、自動車部品を扱う関連工場が多くあり、地域での工業生産の様子が分かる分布図や統計資料、写真、VTR等の資料を活用したり、調べたりすることを通して、身近な自動車がどのように作られているのか、もの作りにかかる人々の工夫や努力を理解し、工業生産と国民生活との関わりを身近に捉えさせるように学習する。

自動車に対する子供たちの「調べてみたい、知りたい」ということから課題設定をし、実際に見学に行き見たり、聞いたりすることで自動車工場についての興味・関心を持たせ、最後まで意欲的に学習できるようにしていく。そして、カヤバ工業(可児市)や豊精密機械工業(御嵩町)などの地域の関連部品工場を取り上げ、生産過程を学習することを通して、日本の工業生産を学ぶことができると考える。また、日本の工業生産を代表する自動車産業は、関連部品工場やそれに関わる人々の工夫や努力によって支えられていることが理解できると考える。

さらに、その部品が可児市や御嵩町で生産されていることから、社会的事象がより身近なもの、生活認識に深く関わって、子供たちが意欲・関心をもって追求できるのではないかと考える。

(2) 本時について

環境にやさしいガソリン以外の燃料で走る自動車の開発が進められる中、御嵩町の自動車工場の中でも環境を考えた工夫や努力があることを気づかせ、工場で働く人々の願いをつかませたい。そして、私たちが住む御嵩町の環境改善のために、自分たちが行動を起こしていきたいという意欲につなげていきたい。

(3) 児童の実態(男子18名、女子21名、計39名)

本学級は男子18名、女子21名、計39名である。全体的に課題に対して意欲的に取り組む児童が多く、資料から分かることをたくさん見つけたいという思いをもっている。自分の考えに自信がある時には、積極的に挙手することができる。しかしその反面、自分の考えに自信がもてない時には、挙手する児童が限られてしまい、活発な意見交流をする力が弱い。これまで社会科においては、自分の考えをまとめてから「ペア交流」の時間をとって、個人的に自分の考えを相手に伝えたり、相手の意見を聞いて自分の意見に取り入れったりする活動を行ってきた。また、全体交流では、仲間の意見に対して、付け足したり、まとめたりしてお互いの意見が深まることが少なかった。そこで、「だから読み」、「前の学習読み」、「まとめ読み」、「付けたし読み」を提示し、資料から分かったことの発言の方法を指導した。これらの指導を繰り返すことで、4月頃に比べると全体交流の中で発表する子が多くなった。

また、国語や総合の授業では、グループごとに環境についての調べ学習を行い、環境新聞の作成やグループ発表会を通して、環境への意欲関心を高めることができた。しかし、まだ自分達が関わっている大きな問題として考えることができず、自分達の生活を見直し、実践していく力は弱い。本単元の学習を通して、児童が「自分達の生活から変えていこう」という意識をもてるように指導していきたい。

(4) 人権同和教育の観点

本時の展開では、具体的に次の3点が人権同和の観点となる。

交流活動において、仲間との違いや共通性を見つめさせることで「自己啓発力」を高めることができる。全体交流の場で、相手のことを考えて分かりやすく伝えようとする態度を高めることで「行動力」を高めることができる。

自動車工場の工夫や努力の裏側にある、願いを読み取ることで、「認識力」を高めることができる。

3. 研究テーマに関わって

(1) 研究主題

思考力・判断力・表現力を育てる学習の創造

～「交通・環境学習」を視点として～

5年生の目指す子どもの姿、研究の重点

- ・御嵩町の歴史や特色に興味関心をもち、環境への取り組みを調べることができる。
- ・今までの学習の仕方を活かして、必要な資料を選別し、それらを関連させて自分の考えを持つことができる。
- ・調べたことや考察したことを図や表などに分かりやすくまとめ、それらを提示しながらはっきり話し、伝えることができる。

(2) 研究内容と関わって

【研究内容1】交通・環境問題を視点とした「社会科」における学習プロデュースのあり方

本単元の「自動車をつくる工業」の学習を通して、御嵩町の環境への意欲関心を高めていき、校区内の空気を測定する実験、運動場に様々な車を集め廃棄ガス調べを行う「クルマ大集合」を行い、環境問題を身近な事に考えることができた。また、自分たちの住む御嵩町の豊精密工業で行われている環境を考えた

人々の工夫や努力を学ぶことにより、自分たちにもできる環境に優しい生活を考えさせる事ができるようにした。

【研究内容2】問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

資料提示 課題設定 予想と見通し 個人追求 ペア交流 全体交流 まとめという流れを児童自身が把握していて、次に何をするのか見通しをもてるようにした。

児童の生活により近い可児市のカヤバ工業、御嵩町の豊精密工業を授業の中に取り上げ、学習意欲を高めると共に、自動車産業が自分たちの生活に近いものだと実感できるようにした。

また、特別講師として御嵩の自動車工場働く方々を招き、児童が直接、働いている方の工夫や努力、願いを理解することができた。

【研究内容3】情報発信と生活化を出口とした地域への環境アクションのあり方

本単元での学習を通して学んだことを、エコ番組を作成して全校に発信していきたいと考える。学習を通して発見した御嵩町の直面している環境問題、今すぐ実践できる環境に優しい生活をお昼の放送で伝えていきたいと考える。また、2月に行われる可児市環境フェスタで御嵩小学校の代表として参加したいと考える。

『研究の視点』

【研究内容1】交通・環境問題を視点とした「生活科」における学習プロセスのあり方

・本時は、今まで学習してきた自動車から、私たちの住む御嵩町の環境を考える総合的な学習の導入である。本時を通して、御嵩町の環境のために、自分たちができることを考えたいという意欲につながったかどうか。

【研究内容2】問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

・御嵩の工場働く方を招いたことは、御嵩の自動車工場働く人々の願いにせまるために効果的であったか。
・資料が問題解決をするのに効果的であったか。

【研究内容3】

4.単元の目標

(1)我が国の自動車工業の生産の仕組みについて関心をもち、意欲的に調べることを通して、人や環境への配慮など、工業生産と国民生活との関わりについて関心をもつことができる。

(関心・意欲・態度)

(2)我が国の自動車工業の生産について、生産の仕組みや働く人々の工夫や努力、関連工場との関わり、外国とのつながりなどと関連付けて考えることができる。

(思考・判断)

(3)見学を通して、具体的に調査したり、統計や写真、働く人の話など資料を目的に応じて活用したりして、調べたことを自分なりの方法で表現することができる。

(技能・表現)

(4)我が国の自動車工業の生産が機械化や分業化によって効率よく大量に生産されていること、ものの品質や安全性を重視して働く人々の工夫や努力が重ねられていることを理解することができる。

(知識・理解)

5. 単元指導計画

時間	ねらい	学習活動	資料	評価基準	指導・援助
1	私たちの身の回りの生活の中から、工業製品を見つけ、その役割を考えることを通して、工業製品についての興味・関心を持つことができる。	1 工業によって原材料から工業製品に変わることを見学的にとらえる。 2 「工業」がどういうものなのか知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">私たちの生活は、どのような工業製品に支えられているのだろう。</div> 3 我が国の工業が生活の中で、どのような役割をしているのか考える。 4 アンケートを行う。 ・家庭にある工業製品について調べてくる。	・アンケート用紙	ア - ・身近な生活との関わりから、我が国の工業製品に関心を持ち、進んで調べようとする。	・工業によって原材料が工業製品に変わることを見学的に捉えることによって「工業」に興味を持たせる。
2	自動車は、便利で生活に欠かせないことを認識し、自動車についての興味・関心をもち、自動車がどのように生産されるのか課題をもつことができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">アンケートをもとに、気付いたことを交流しよう。</div> 1 アンケート結果をもとに、交流する。 2 自動車が日本の工業に欠かせないものであることが分かる。 ・移動するのに便利 ・生活に欠かせない 3 世界にも日本の自動車が、輸出されていることが分かる。 ・日本の自動車性能のすばらしさが分かる。	・アンケート結果 ・日本の工業生産額の円グラフ ・日本の輸出額のグラフ	イ - ・我が国の自動車生産の仕組みなどに問題意識を持ち、適切に課題設定を行っている。	・アンケート結果から、複数ある工業製品の値段を示すことによって、自動車は高価なのに多くの家庭にあることに気付かせる。また、その理由を考えることによって、自動車に興味を持ち、生産の過程について関心をもたせる。 ・世界にも日本の自動車が使われていることをおさえる。
3	学習課題をもとに予想を立て、自動車組み立て工場について興味・関心をもち、見学への意欲をもたせ、見学計画を立てることができる。	1 自動車工場のある場所、工場の大きさ、様子などを知る。 2 見学の計画を立てる。(トヨタ工場) ・どんな機械があるか。 ・働いている人は どのくらいいるか。 ・仕事の様子。 ・製造方法。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">3万個もある自動車部品を組み立てている組み立て工場の見学計画を立てよう。</div>	・東海3県の白地図 ・トヨタ市や地図や写真 ・見学計画プリント	ア - ・我が国の自動車生産についての見通しをもち、意欲的に課題追求しようとする。	・自動車のボンネットを実際に見た上で、課題を立てていく。
4 5	見学を通して、自動車工場の様子や、働く人の工夫や努力を調べることができる。	1 自動車の組み立ての順序、作業などの工夫を調べる。 2 見学内容をまとめる。(トヨタ工場見学) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自動車は、どのように組み立てているのだろうか。</div>	・見学のしおり	アー ・工場の見学、働く人の様子などから自動車生産の工程や働く人の工夫や努力を追求している。	・見学の仕方を常に意識させ、安全に見学させる。 ・あらかじめ、子どもたちに聞きたいことをまとめさせる。

6	見学して分かったことを交流することを通して、自動車がつくられる秘密や働く人々の工夫や努力が分かる。	<p>1 トヨタ工場見学で分かったことを交流する。</p> <div data-bbox="427 183 922 286" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どうして間違いもなく注文した車がつくられるのだろう。</p> </div> <p>2 自動車が次々と生産される仕組みが分かる。 3 間違いなく、組み立てができる仕組みが分かる。</p>		<p>ウ -</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車の組み立ての順序や働く人の工夫など、調べた過程や結果をまとめようとしている。 	
7	自動車部品工場に関する資料から、関連工場における工夫や努力を調べる。	<div data-bbox="438 459 912 600" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どうしてトヨタは3万点もの部品があるのに、一人ひとりの希望に合わせて早く正確に車を作ることができるのだろう。</p> </div> <p>1 自動車はどんな部品からできているのか調べ、話し合う。 2 どのようにして作られているのか調べる。 3 分布図から、自動車工場と関連工場の分布の様子を読み取り、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工場働いている人の写真 	<p>ア -</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場働く人の資料などから自動車関連工場働く人の工夫や努力について意欲的に課題追求をしている。 	
8	輸送に関する図や、豊田市周辺の様子を調べ、自動車の部品や製品の輸送の様子をつかむ。	<div data-bbox="438 833 912 945" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>完成した自動車は、どのようにして消費者のもとに届くのだろう。</p> </div> <p>1 消費者の注文が指示書によって工場に伝えられ、工場に必要な部品が指示書によって部品工場に伝えられる事が分かる。 2 指示書の良い点、大変な点について話し合う。 3 西田さんの話から仕事の大変さや工夫していることが分かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田市周辺の地図 	<p>イ -</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より効率よく生産するためのジャスト・イン・タイム方式について、事実をもとに様々な面から追求して考え判断している。 	
12	世界のトヨタ工場の分布や現地生産の仕組みを調べ、いろいろな国とのつながりを知る。	<div data-bbox="414 1249 912 1355" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どうして日本の自動車工場が海外に進出するようになったのだろう。</p> </div> <p>1 海外生産拠点地図を見て、どの国に自動車工場があるのか調べる。 2 海外で生産する良さを考え話し合う。 3 海外で品質のよい自動車を作るために、工夫していることを見つけ、話し合う。</p>		<p>イ -</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無駄のない生産方式を支えるために、運輸の仕事が大きな役割を果たしていることに気付くことができる。 	
13 14	いろいろなクルマの排気ガスを調べて、これからのクルマとの関わりを考えることができる。 (クルマ大集合)	<div data-bbox="414 1594 912 1697" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>環境によい車と普通の車はどのような違いがあるのだろう。</p> </div> <p>1 エコカーを見学し、試乗する。 2 いろいろなクルマの排気ガスを調べる。 3 ハイブリッドカーや燃料電池車の良さが分かる。 ・地球温暖化の原因の二酸化炭素の排出が半分ですむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッドカー ・普通の車 ・燃料電池車 ・福祉車輛 ・CO2測定の実験 	<p>エ -</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境への配慮から自動車生産の抱える課題について気付くことができる。 	
15	ハイブリッドカー開発の様子について調べ、生産する人の工夫や努力があったのだろう。	<div data-bbox="422 1975 912 2078" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ハイブリッドカー誕生には、どのような工夫や努力があったのだろう。</p> </div>		<p>ウ -</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車生産と環境について、 	

		<ol style="list-style-type: none"> 1 ハイブリッドカーで使われているエネルギーについて考える。 2 工夫や努力について話し合う。 3 ハイブリッドカー以外のエコカーについて話し合う。 4 本時のまとめをする。 5 次時は、製品ではなく、自動車をつくる過程での環境を考えた工夫や努力を考えていくことを示唆する。 			
16 本 時	御嵩の自動車工場 で働く人の環境を考 えた工夫や努力を考 える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">御嵩町の自動車工場では、どのような工夫や努力があるのだろう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 1 御嵩町の環境問題を確認する。 2 御嵩町内の自動車工場の環境を考えた工夫や努力を考える。 3 地球環境にやさしい自動車づくりを目指し開発され、生産されていることがわかる。 		ウ - ・自動車生産と 国民生活との 関わりについ て、資料を効 果的に活用し て調べている。	

1	御嵩町内で起きて いる環境問題やその 取り組みについて考 えることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">御嵩町では、どんな環境問題が起きているのだろう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 1 御嵩町の環境問題について調べる。 2 御嵩町の環境問題への取り組みについて調べる。 3 御嵩町の環境改善のために、自分たちができることを考える。 	・御嵩町の 環境白書		
2	自分たちが実践で きる環境に優しい暮 らし方を考えること ができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">環境にやさしい暮らしの計画を立てよう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 1 環境にやさしい暮らしの実践計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・使わない電気の消灯 ・テレビの時間を30分減らす。 ・お風呂は連続して入る。 ・歩いて行けるところへは歩いていく。 ・ポイ捨てをしない ・いらない紙はリサイクルボックスに入れる。 ・水野無駄使いを減らす。 	・		<ul style="list-style-type: none"> ・環境にやさしい生活様式の事例を紹介する。 ・家族と一緒に実践できるように協力を依頼する。 ・実践項目とともに、目標を立てる重要性を訴える。
3	グループごとに取 り組むテーマを決め て、実践計画を立て ることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">家庭で実践する計画を立てよう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 1 1週間各家庭で実践できることを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとで取り組む内容を決める。 2 どのように実践をしていくのが計画を立てる。 	・B紙 ・画用紙 ・写真		

4 5	グループごとに撮影会に向けて準備をすることができる。	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">撮影会の準備をしよう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 1 グループごとに実践の記録をまとめる 2 撮影会に向けて準備をする。 3 お互いに発表を見合い、アドバイスし合う。 			
6	グループごとにビデオ撮影の準備ができる。	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">エコ番組を作成しよう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 1 グループごとに取り組んだテーマのビデオ撮影の準備をする。 2 お互いのグループの発表を見合いアドバイスをし合う。 			
7	グループごとにビデオ撮影を行う。				

第6学年 総合的な学習の時間学習指導案

日時 平成21年12月11日(金)5、6時

場所 体育館

授業者 兼氏 敏夫

1 単元名 日本のすばらしさを知ろう。～わたしたちの生活と交通、環境から～

2 指導の立場

(1) 教材について

御嵩小の校区には、江戸時代の街道の一つである中山道がある。わが町は、前身の東山道の頃より可児大寺や愚溪寺の門前町として栄えていたが、御嵩塾がおかれたことにより宿場町としても大いににぎわいを見せていた。明治時代になると、区裁判所や学校が他の町に先がけて創設され、御嵩町は、宿場町から東濃地方の中心地としてのにぎやかさを見せた。更に昭和に入ると、名鉄電車がわが町と名古屋をつなぐ交通機関として登場し、交通機関の充実と町の発展は切っても切れない関係にあるといえる。

本単元では、明治村を見学したことをきっかけに、交通機関に目を向けさせ、私たちの生活との関わりについて意識を高めたいと考え設定したものである。六年生の「総合的な学習の時間」としては出口の学習であり、導入での「御嵩の歴史の扉を開こう～御嵩から日本へ～」に続く学習である。そこで、明治村見学で見たり、聞いたり、体験・実感したことを大切にしながら、江戸・明治・現在の3つの時代のそれぞれの交通機関(道や乗り物)について班ごとにテーマを持ち、調べまとめることにした。更に私たちの町にも目を向け、時代ごとの町の交通について考えさせることで、今の御嵩町の交通に関わる課題を子供なりに捉えることをねらっている。各班の発表を交流することで、環境問題や未来の交通機関などに対する考えを持つことで、3学期の議会見学の時に「御嵩町のこれからのために、6年3組が考えること」という議案書を提案したいと考えている。

(2) 本時について

本時は、今まで班ごとに調べ進めまとめたことを交流し合い、交流の中で、自分たちの調べたことと比べたり、自分の意見を持ったり、お互いの意見を交流していく中で環境問題やこれからの交通機関について考え、更に自分たちが住む御嵩町の将来の交通機関や生活についても関心を持てるようにしたい。

そのためには、自分たちのテーマで調べたことが調べっぱなしで終始するのではなく、調べたことを通して、調べたことから自分たちのもっとこうすべきだった、昔の時代のことだが今にはない良さがあるなど「願い」を持たせるようにしたい。自分たちの「願い」を持つことで仲間の説明を聞く姿も、より自分たちと比べたり、共感したり、反対したりする自分たちで深めていく交流になると願っている。

(3) 児童の実態

男子18名 女子14名 計32名の学級である。大きな団地があるということから団地に住む児童が多い。だが、地域性もあり、地区ごとに(団地も含め)お祭りなどの行事が多く、児童も多くが積極的に参加している。また亜炭坑や大庭台にある池などこの御嵩地区のことについては、今までの総合的な学習の時間や社会科の学習で学んでいるので知識としてしっかりと持っている。

反面、名鉄広見線や産廃問題など御嵩町の現在の課題、問題については関心が薄く、自分たちは電車に乗らないから、関係ないからという意識も見られる。

本単元、本時の学習を通して、自分たちの住む御嵩町にもっともっと関心を持ち、もっと住みやすいよりよい御嵩町にするためにどうしたらよいのかという自分の、自分たちの考えを持ち更にそのことを言葉や資料にして発信していける活動を進めていきたい。

(4) 同和教育の観点

・まとめを発表するとき、相手のことを考えてわかりやすく伝えようとする中で、「行動力」を高めることができる。

・交流の中で、仲間のよさに気づき、自分の意見や思いをより深めていくことが「自己啓発力」につながる。

3 研究のテーマに関わって

(1) 研究主題

思考力・判断力・表現力を育てる学習の創造 ～「交通・環境学習」を視点として～

6年生の目指す子供の姿、研究の重点

- ・今までの学習を生かして、自分たちのテーマに沿って必要な資料を選別し、それらを関連させてまとめることができる。
- ・調べたことを、わかりやすくまとめ、それらを提示しながらわかりやすく仲間に伝えることができる。
- ・自分たちが住む御嵩町にもっともっと関心を持ち、もっと住みやすい、よりよい御嵩町にするために具体的な考え、意見を持つことができる。

(2) 研究内容に関わって

【研究内容1】

・交通、環境問題を視点とした「総合的な学習」における学習プロセスのあり方
先に児童の実態で述べたように、児童は御嵩町のことに対して知識は持っているが、思いはもっともっと高めていくことが可能であると考えている。そのため本単元の「日本のすばらしさを知ろう。」の学習を通して、御嵩町での江戸、明治、現在の交通機関について班ごとに調べ進め、交流することでより自分たちの住んでいる国、先は御嵩町の交通に関心を持ち、もっと住みやすいよりよい日本（御嵩町）にするためにはという願いを持ち、それを発信していくことをねらいとした。

【研究内容2】

・問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方
班ごとのテーマについて調べすめまとめる中で、それに対する自分たちの願い、考えを持たせて交流会に臨ませたい。そうすることで、仲間の説明を聞く中で、自分たちの調べたことと比べたり、共感したり、反対の考えを持つことができると考える。そういった考えを、学級の提案として3学期に御嵩町議会に提案する計画を立てていくことなどを通して、資料提示 課題設定 班で課題追求 全体交流 意見まとめ 提案という流れを児童の学習の進みに沿って創り上げていくことを考えている。

【研究内容3】

・情報発信と生活化を出口とした地域への環境アクションのあり方
本時での学習を通して、児童が考えたこと思ったことなどを、学級でまとめ「6年3組のすてきな御嵩町にするために」（仮称）という提案書を作成し、3学期の御嵩町議会見学の時に提案していきたいと考えている。

(3) 研究の視点

- ・この単元を仕組んだことで、児童は自分たちが住む日本（御嵩町）の交通に関心を深め、もっと住みやすいよりよい日本（御嵩町）にしたいという意欲を高めることができたか。
- ・交流会（ポスターセッション）が、児童の、自分たちが住む日本（御嵩町）に関心を深め、もっと住みやすいよりよい日本（御嵩町）にしたいという意欲を高めることに有効であったか。

「日本のすばらしさを知ろう。～わたしたちの生活と交通、環境から～」
 単元指導計画（全15時間）

単元目標 ・郷土や日本、世界の国々の歴史や生活、交通や環境に関心を持って学び、自分の学んだことを整理して、かつ伝える相手を意識して多様な方法でわかりやすく表現することができる。
 ・学習のまとめでは、それまでに学習したことから、自分の興味関心をもったことについて個人課題を設定し、それらについて自ら追求し、深めることができる。

時	ねらい	学習活動	評価 留意点
1 2	<ul style="list-style-type: none"> 「明治村」という文化財を知り日本の生活や交通などの変化について関心を持つことができる。 明治村見学の班の計画を立てることができる。 	文化財「明治村」とはどんな所か、資料や教師の話からイメージを持つ。 「明治村」にある人力車やSLなどの交通機関の存在を知り、現在の交通機関との違いや変化その背景にある歴史的な事情について関心を持つ。 明治村見学での班の課題を立てることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会を開き、文化財「明治村」の概要を知る。「明治村」で何を見て、何を調べてくるのか班や自分の課題を持つことができる。
3 4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 「明治村」見学から、人力車、SL、蒸気機関車などの明治時代の交通機関を見て、聞いて実際に乗ってみたりすることで、体感することができる。 現在や江戸時代の交通機関との違いや変化を実感することができる。 	「明治村」見学体験学習 <ul style="list-style-type: none"> 人力車は大きい。動かす人は大変だろう。 SLや蒸気機関車は快適だった。運賃とかはいくらなんだろう。今みたいに多くの人が平等に乗れたのかなあ。 御嵩町では、明治時代にはSLや蒸気機関車、人力車があったのかなあ。どんな乗り物があったのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> バスや電車など、明治村に行くのに使用する現在の交通機関についても関心を持つことで、明治村の人力車などと比較して考えることができる。明治村での、課題に応じた体験や感想などをしおりにメモすることができる。
8 9 10 11 12 13	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに、テーマに沿って調べ、まとめていく。 	江戸、明治、現在の3つの時代の交通機関について班ごとのテーマを決めることができる。 班で、インターネット、資料（学校や地域の図書館）、実際に体験したり、見たり聞いたりすることなどを通して調べ進めていく。 調べ進めていったことをB紙にまとめていく。 発表の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 江戸や現在のテーマでも、明治村見学で学んだことができるように、比較したり変化などについてもまとめていくことができる。自分たちのテーマに沿って、調べ方を工夫することができる。テーマに即した調べ方をすることができる。

1 4	・発表会（ポスターセッション）	発表会（ポスターセッション）のあり方について	発表会（ポスターセッション）
1 5 本 時	を通して、3つの時代の交通機関の進歩や変化について知り、そこから見えてくる環境問題や未来の交通機関に対して等自分の考えを持つことができる。	<p>確認する。</p> <p>・各班を前半（A）後半（B）に分けて、Aは前半は見に来た他の班のBに対して自分たちのまとめの説明をする。Bは決められたスケジュールに沿って他の班のAの説明を聞く。後半になると（ホイッスルの合図）説明するのと聞くのが入れ替わる。</p> <p>発表会（ポスターセッション）を行う。その中で、聞いている側も自分たちの考えを発表する。</p>	<p>を通して、3つの時代の交通機関の進歩や変化について知り、そこから見えてくる環境問題や未来の交通機関などに対して自分の考えを持つことができる。調べてまとめたことをわかりやすく説明できる。仲間の説明を聞いて、自分の考えを発言できる。</p>

第2回 全校研究会を振り返って

平成21年11月4日(水)実施

中学年部 4年1組(社会科)
「きょう土に伝わる願い」
～ぼくらの電車いきいきプラン～
奥村 洋可 先生

思考力・判断力・表現力を育てる学習の創造 ～「交通・環境学習」を視点として～

【4年生のめざす子どもの姿・研究の重点】

鉄道敷設に懸ける先人の願いや努力を知り、利用客や鉄道会社の人の話を聞くことで様々な立場の人がいることに気づき、自分たちには何ができるのか考え、それを他者へ発信することができる。

研究内容1 交通環境問題を視点とした社会科における学習プロデュースのあり方

【視点1】

この単元を仕組んだことで子どもたちが自分たちが住む御嵩町に対する愛着を持つことにつながったか。

(授業研究意見)

- ・この単元が仕組まなければ、子どもたちは名鉄について知らずにいた。学習することで名鉄電車の現状を知り、駅を残そうという気持ちにつながるのではないか。
- ・廃線になる前に取り挙げたことで興味がわいた。興味=愛着ではないが、「自分たちの町に電車が通っている。自分たちの町の電車がなくなってしまう。」という思いを持つことができたのではないか。
- ・電車に乗ってみたり、利用者の声を聞いてみたり、実際に体験する学習を仕組んだことでいろいろな発見をすることができた。
- ・真名田池の学習を鉄道の学習に組み替えた。どの子にも参加できる身近な題材になった。
- ・単元の流れがよい。今の御嵩の問題を取り上げ、御嵩の歴史も学習し、自分たちにできることを考えて、地域へ発信するところまで仕組まれていてよい。自分たちで動きを起こそうとするところがよい。
- ・単元を通して、御嵩の鉄道をつくった人の強い願いをもう少し深く伝えたい。
- ・私財を使って鉄道をつくった人の願い、人物にせまる授業を仕組むことで子どもたちに伝える方法もあるのでは。一人の人物に焦点をあてて、その人の強い思いを学ぶ方法もよい。
- ・今日の学習では、「電車が便利」でまとめられていたが、車の便利さになれている子どもたちにとってはどうか？

(考察)

- ・新しい単元を立ち上げたことに意味がある。自分たちの住んでいる御嵩を身近に感じる事ができた。名鉄電車に乗ったことがない子どもたちも、電車に乗るという体験ができ、名鉄の廃線問題を考えるきっかけとなった。
- ・鉄道敷設に懸ける人々の強い願いを伝える単元の流れにしたい。

研究内容2 問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

【視点2】

資料の読み取りや話し合い、中島さんの話を聞くことで、先人の鉄道敷設に懸ける思いの強さについて理解することができたか。

(授業研究意見)

- ・子どもたちの意欲的な姿が見られた。姿勢がよい。たくさんの挙手。長い発言。声の大きさもよい。今までの指導が生きている。よく訓練され、しつけられている。
- ・資料の「読み取りの技」が生きていた。よく育っている。積み重ねがある。
- ・数字を読み取っている子、付け足しをする子、つなげて考える子がいた。
- ・ちょうどよい資料を見つけるのが大変だった。なかなか見つからない。
- ・資料2はわかりやすかった。資料1の方が読み取れていない子がいた。
- ・本時の資料では、人々の思いの強さがかかるのか？資料から想像して考えていた。どのような努力をしたのか(かかった費用、時間など)がわかる資料があるとよい。
- ・思いの強さにせまれるように、付け足しの子を意図的に指名したり、切り返し発問で立ち止まって考えさせたりして、もっと意見を深めるとよかった。プリントに書いたこと以上の意見が出てきたのではないか。
- ・中島先生のお話は、「当時の人々は電気と電車が憧れだった」の部分が人々の思いにつながっていた。鉄道を敷いた人々の願いについて話していただけるとよかった。

(考察)

- ・資料を集めるのが大変だが、ねらいに迫る資料を提示することが大切。
- ・子どもたちの意見を意図的につなげ、深めていくことが大切。

【二村文生先生からのご指導】

- ・意欲的な子どもたちの姿が見られた。先生と子どもが一体になっている。この単元に力がいっていることがわかった。
- ・発言のしかたが鍛えていある。(声の大きさ、「資料1から～」の言い方、聞き逃さないようにするなど)
- ・反応のしかたが画一的になっている。自然な反応ができるようになるといい。
- ・「読み取りの技」は今までの学習の中からつくりあげてきたもの。多角的な見方ができる。
- ・意見を言わせるときに、意図的に「～と～を比べてみると・・・」と言わせてみる。意図的にしゃべらせることで、比べることを意識させる。
- ・2つの事象をならべてくらべること、今までの学習や経験と比べてみることは、これからの生きる力につながっていく。
- ・資料の事実からわかったことを深めるために、もう一度考えさせる。そして課題に迫らせる。
- ・本時の資料では先人の願いはつかみにくい。鉄道敷設者の平井さん、野呂さんの子孫に尋ねてみることもよいのでは。
- ・新しい単元をつくることは、こちらの思いや意図がうまくつながらないことがあるが、つらぬくテーマや願いがあるとよい。人物を取りあげると扱いやすい。

【総括】

- ・新しい単元を立ち上げたことによって子どもたちの意識を御嵩町にむけることができた。
- ・適切な資料を用意することが大切。
- ・子どもたちの意見をつなげたり、切り返したり意図的に深めていく。

第3回 全校研究会を振り返って

平成21年11月19日(木)実施

高学年部

5年3組(社会科)

「自動車をつくる工業」

～御嵩からのエコ大作戦～

木村 健太郎 先生

思考力・判断力・表現力を育てる学習の創造

～「交通・環境学習」を視点として～

【4年生のめざす子どもの姿・研究の重点】

- ・御嵩町の歴史や特色に興味関心をもち、環境への取り組みを調べることができる。
- ・今までの学習の仕方を活かして必要な資料を選別しそれらに関連させて自分の考えを持つことができる。
- ・調べたことや考察したことを図や表などにわかりやすくまとめ、それらを提示しながらはっきり話し、伝えることができる。

研究内容1 交通環境問題を視点とした社会科における学習プロデュースのあり方

【視点1】

本時は、今まで学習してきた「自動車をつくる工業」のまとめであり、私たちの住む御嵩町の環境を考える総合的な学習の導入である。

本時を通して、御嵩町の環境のために自分たちができることを考えたいという意欲につながったか。

(授業研究意見)

- ・社会科の出口の授業であり、総合的な学習の入り口の授業でもあった。
- ・木村先生の最後の話(みんなが住む御嵩町でも～)で御嵩町を意識させることができた。環境について考える総合のこれからの学習につながっていく。
- ・子どもたちは一生懸命考えていた。社会科で働く人々の願いに注目させ、本時で自分たちにもできることがあるのではと考えるきっかけを作ることができた。
- ・4年生(水、ゴミ)の学習とも関連させるとよい。
- ・流れがすっきりと整然としていた。
- ・御嵩町の企業ということをもっと意識させるには、時間に猶予があるなら、実際に盟和産業へ見学に行くのもよい。
- ・盟和産業を取り上げるにあたっての、資料集め、打ち合わせ、準備が大変だったと思う。大変な努力と労力をかけられたと思う。
- ・環境やリサイクルに対する世の中の考え方が変わっていることをとらえさせたい。

(考察)

- ・「交通・環境学習」に関連させて新しい教材を取り上げたことに意味がある。御嵩町の企業である盟和産業について学習したことが、自分たちの住んでいる御嵩町の環境を考えるきっかけとなった。
- ・工業製品を通して、生産者側からの願いにも、消費者側からの願いのもの、どちらの立場でも寄り添って考えることができる単元の流れにしたい。
- ・大企業でも環境に配慮した生産をし、消費者も環境に配慮した物を選ぶようになり、身近な御嵩町の部品工場でも環境に配慮していることを学習したことによって、自分たちも考えていかなければという思いにつながっていく。

研究内容2 問題解決学習を成立させる指導と評価のあり方

【視点2】

資料の読み取りや話し合い、福岡さんの話を聞くことで、「盟和産業で働く人のゴミを最小限に抑え、限られた資源を有効に活用したいという願いを理解することができたか。

(授業研究意見)

- ・資料の読み取り方がよかった。たくさんいろいろなことを読み取っていた。
- ・澁さんの「仕事がふえた」という意見をもっと深めていくとよかった。「手間をかけても」「お金をかけても」環境を守らなければという企業の社会的責任を考えさせることにつながったのではないかな。
- ・澁さんの意見を取り挙げ、もう何人かの子にどんな考えか話させるとよかった。
- ・資料を読み取る時に、ノートに自分の考えを文章できちんと書いてたが、資料に直接、メモ程度にたくさん書き込ませておいて、そのメモをもとに、黒板の資料を指し示しながら話させると、伝える話し方ができるのではないかな。
- ・リサイクルに3億円かけているが、企業はもともととれなければ取り組まない。そういう面も子どもたちに考えさせたい。福岡さんのお話にもそういった内容が盛り込まれていた。石油枯渇のグラフより、利益利潤のグラフでもよかったのではないかな。
- ・福岡さんのお話の最後のとことで、子どもたちも自分たちにもできることがあるのではないかなという考えがもてた。

(考察)

- ・資料を集めるのが大変だが、ねらいに迫る資料を提示することが大切。
- ・子どもたちの意見を意図的につなげ、深めていくことが大切。

【武藤裕二指導主事からのご指導】

- ・事実の提示 疑問(子どもたちにつぶやかせたい) 集約 課題(子どもたちの言葉で) 予想 検証するための資料の提示(自分なりの考えを持ち見通しを持つ) ここまでが社会科の課題化。できれば、検証するための資料は、どんな資料があれば考えられるか子どもたちに聞いてあげるとよい。
- ・ぐっと立ち止まって考えさせるところを必ず作りたい。「本時でいうと澁さんの意見。みんなはどう思った？」と投げ返すといろいろな子が話し始める。考えが深まる。企業の利潤を求めると、採算が合わなければ取り組まないところも考えさせたい。異質な意見を取り挙げたり、や相反するような資料を提示して立ち止まって考えさせるところを作る。
- ・福岡さんのお話の「一人でも勝手なことをするとゴミになってしまう。」というところを取り挙げて考えさせるとよい。必要な情報を収集して、環境についての現状を把握してから、自分たちの活動や行動を考えさせるとよい。

【総括】

- ・新しい単元を立ち上げたことによって子どもたちの意識を御嵩町にむけることができた。
- ・適切な資料を用意することが大切。
- ・子どもたちの意見をつなげたり、切り返したり意図的に深めていく。